

條第二項ノ詐欺罪ヲ構成スルモノニシテ此ノ場合ニハ欺罔手段ヲ用ヒ利得スルコトヲ犯罪ノ構成要件トセサル鐵道營業法第二十九條第一號ノ處罰規定ハ其ノ適用ナキモノトス

第三十一條

○變裝シタル火藥類ヲ鐵道運送ニ依リ託送スル行爲ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十七條第一項第四十五條及鐵道營業法第三十一條ニ該當シ刑法第五十四條第一項前段第十條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

第三十六條

○鐵道軌條上ニ石塊ヲ置ク行爲ニシテ機關車ノ運轉ニ必要ナル器具ヲ毀損シ其ノ運轉ニ障礙ヲ生スル虞アルモノハ刑法第二百五條ニ「其ノ他ノ方法ヲ以テ汽車往來ノ危險ヲ生セシメタル」トアルニ該當ス
○點火セル信號燈ヲ擅ニ鐵道信號器ヨリ取去ル行爲ハ鐵道營業法第三十六條第二項ニ該當ス

鐵道運輸規程

第三十七條

○變裝シタル火藥類ヲ鐵道運送ニ依リ託送スル行爲ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十七條第一項第四十五條及鐵道營業法第三十一條ニ該當シ刑法第五十四條第一項前段第十條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

第五十四條

○變裝シタル火藥類ヲ鐵道運送ニ依リ託送スル行爲ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十七條第一項第四十五條及鐵道營業法第三十一條ニ該當シ刑法第五十四條第一項前段第十條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

電話至急開通規則

第十一條

○電話使用權ノ處分禁止期間内ニ於テ之ヲ賣渡擔保ニ供シタル事實ヲ隱秘シ更ニ之ヲ賣渡擔保ニ供シ相手方ヲ欺罔シテ金圓ヲ取得スルトキハ詐欺罪ヲ構成ス

第十三條

○大正八年六月遞信省令第五十八號電話至急開通規則ニ依リ至急開通シタル電話ノ加入名義又ハ電話機設置場所ヲ開通後五年ノ經過ヲ條件ト

二三
二七

二三
二四六

二二
二二六

二二
二二六

二三
四三六

二三
四三六

二三
三三三

シテ變更スルコトノ豫約ハ有效ニシテ其ノ豫約書類ハ詐欺罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

第十六條

○大正八年六月遞信省令第五十八號電話至急開通規則ニ依リ至急開通シタル電話ノ加入名義又ハ電話器設置場所ヲ開通後五年ノ經過ヲ條件トシテ變更スルコトノ豫約ハ有效ニシテ其ノ豫約書類ハ詐欺罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

第十八條

○大正八年六月遞信省令第五十八號電話至急開通規則ニ依リ至急開通シタル電話ノ加入名義又ハ電話機設置場所ヲ開通後五年ノ經過ヲ條件トシテ變更スルコトノ豫約ハ有效ニシテ其ノ豫約書類ハ詐欺罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

附則

○大正八年六月遞信省令第五十八號電話至急開通規則ニ依リ至急開通シタル電話ノ加入名義又ハ電話機設置場所ヲ開通後五年ノ經過ヲ條件トシテ變更スルコトノ豫約ハ有效ニシテ其ノ豫約書類ハ詐欺罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

一四	一四	一四	一四
四	四	四	四
三五八	三五八	三五八	三五八

電氣鐵道取締規則

(警視廳令)

第二十八條

○電車軌道ノ敷設シアル街路ノ軌道外ヲ進行スル自動車ノ運轉手カ軌道内ニ乗入ルルトキハ電車カ不時ノ急停車ヲ爲スニ非サレハ衝突ヲ免ルルコト能ハサル場合ニ於テ自動車ヲ軌道内ニ乗入ルルカ如キハ業務上ノ注意義務ヲ怠リタルモノトス

第三十七條

○電車軌道ノ敷設シアル街路ノ軌道外ヲ進行スル自動車ノ運轉手カ軌道内ニ乗入ルルトキハ電車カ不時ノ急停車ヲ爲スニ非サレハ衝突ヲ免ルルコト能ハサル場合ニ於テ自動車ヲ軌道内ニ乗入ルルカ如キハ業務上ノ注意義務ヲ怠リタルモノトス

第四十八條

○電車軌道ノ敷設シアル街路ノ軌道外ヲ進行スル自動車ノ運轉手カ軌道内ニ乗入ルルトキハ電車カ不時ノ急停車ヲ爲スニ非サレハ衝突ヲ免ル

一四	一四
四	四
四二四	四二四

ルコト能ハサル場合ニ於テ自動車ヲ軌道内ニ乗入ルルカ如キハ業務上ノ注意義務ヲ怠リタルモノトス

電氣事業法

第十九條

○「ソケット」トハ電燈線ノ末端ニ取付ケラレ用法上電燈線ト合シテ一體ト爲シ分離スヘカラサル關係ヲ有スルモノニシテ電氣事業法ニ所謂電氣工作物ナリトス

○電氣事業法第十九條ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更ストアルハ其ノ工作物ヲ損壞セサル範圍内ニ於テ新ニ加工設備ヲ爲シタルカ如キ場合ヲモ包含ス

電信法

第三十三條

○電信爲替證書ハ一ノ有價證券ニシテ刑法ノ詐欺罪ニ於ケル財物ニ該當ス

ス

○電信法第三十三條ノ虛偽通信ノ罪ハ刑法第二百四十六條ノ詐欺罪ノ特別罪ニ非ス從テ電信ニ依リ虛偽ノ通信ヲ發シ因テ郵便吏員ヲ欺罔シ電信爲替證書ヲ騙取シタル行爲ハ電信法第三十三條竝ニ刑法第二百四十六條ニ該當シ刑法第五十四條第一項後段ノ適用ヲ受クヘキモノトス

○電信法第三十三條第一項ハ利益ノ獲得若ハ損害ノ發生ヲ目的トシテ虛偽ノ電報ヲ發シタル者ヲ處罰スル趣旨ナレハ其ノ電報カ宛名人ノ依頼ニ基クヤ否又通信事項ノ大小輕重如何ハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ

○電信法第三十三條第二項ニ所謂電報ハ電話ニ依ル通信ヲ包含セス

阿片法

第三條

○裁判所カ押收物件ニ付沒收處分ヲ爲スニハ特ニ公判ニ於テ之ヲ被告人ニ示スコトヲ要スルモノニ非ス

第十條

○裁判所カ押收物件ニ付沒收處分ヲ爲スニハ特ニ公判ニ於テ之ヲ被告人

一三	一三	一五	一三
二	三	五	二
九三〇	三五〇	九三	三〇三

一四	一五	一五	一五
四	五	五	五
四一四	六一	一三二	一三二

ニ示スコトヲ要スルモノニ非ス

愛知縣警察犯處罰令

第一條

○愛知縣警察犯處罰令第一條第七號ノ罪ハ犯人カ賭博場ナルコトヲ知リテ社會ノ通念ニ照シ是認スヘキ事由ナク之ニ參集スルニ因リ成立シ參集ノ目的カ賭博ヲ爲スニ在ルコトヲ必要トセス

按摩術營業取締規則

第五條

○柔道整復術ヲ行フ者探膿針ヲ使用シテ患部ノ化膿ノ有無ヲ檢スルハ一般醫行為ノ範圍ニ屬ス
○柔道整復術營業者ニ準用スヘキ按摩術營業取締規則第五條ノ二ニ則リ醫師ノ同意ヲ得スシテ患者ニ對シ探膿針ヲ使用シタルトキハ醫師法第十一條ニ照シ處斷スヘキモノトス

一三 二九〇

一五 五三六

一三 二〇〇九

一三 二〇〇九

附則

○柔道整復術ヲ行フ者探膿針ヲ使用シテ患部ノ化膿ノ有無ヲ檢スルハ一般醫行為ノ範圍ニ屬ス
○柔道整復術營業者ニ準用スヘキ按摩術營業取締規則第五條ノ二ニ則リ醫師ノ同意ヲ得スシテ患者ニ對シ探膿針ヲ使用シタルトキハ醫師法第十一條ニ照シ處斷スヘキモノトス

裁判所構成法

第二條

○陸軍軍人カ其ノ身分ノ發生前犯シタル罪ニ付通常裁判所ニ起訴セラレ判決前軍人タル身分ヲ取得シタルトキハ被告事件ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スルモノニシテ通常裁判所ハ之ニ對シ裁判權ヲ有セス

第十三條ノ二

○地方裁判所判事カ區裁判所判事ノ代理トシテ檢證ヲ爲シタル場合ニ於テ檢證調書ニ署名スルニ當リ特ニ其ノ代理資格ヲ明示セサルモ其ノ調書ハ無効ニ非ス

一三 二〇〇九

一三 二〇〇九

一五 二九四

一四 二七六

第三十一條

○支部ハ地方裁判所ニ屬スル民事刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲其ノ管轄區域内ノ區裁判所ニ開設セラレルモノシテ地方裁判所ノ一部ニ過キサレハ汎ク地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付之ヲ取扱フノ權限ヲ有スルモノトス

第四十八條

○大審院カ被告事件ニ付裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ關シ表シタル意見ハ法律ノ變更ニ因リ新法ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ其ノ事件ニ付下級審ヲ羈束セサルモノトス

第四百條

○訴訟審理ノ範圍及程度ヲ決スルハ裁判所ノ職權ニ屬ス

○被告人ノ最終陳述アリタル際裁判所カ特ニ合議ヲ必要トスル場合ノ外ハ裁判長ハ裁判所ヲ代表シ直ニ審理ヲ終結スルコトヲ得ルモノトス

第四百五條

○公判調書ニ公開ヲ禁シタルコトノ記載ナキ以上ハ特ニ公開シタル旨ノ記載ナシトスルモ其ノ公判ハ公開セラレタルモノト認ムヘキモノトス
○公判始末書ニ裁判長カ公開停止ヲ解ク旨ヲ宣言シタルコトノ記載アル

二三
二八二〇

一三
三八九三

二三
二五八八

二三
二五八八

二三
三三八

以上ハ合議ニ因リタルモノト解スルヲ相當トス

第四百十五條

○外國語ヲ用テ記載セル上告趣意書ハ其ノ效力ナキモノトス

第四百十七條

○裁判所書記カ裁判所構成法第一百七條ノ規定ニ基キ通事ヲ爲ス場合ニハ宣誓ノ義務ナキモノトス

産業組合法

第二十五條

○産業組合ノ理事ハ組合ノ書記ヲシテ金銭ノ出納保管ノ事務ヲ擔當セシメタル場合ニ於テモ自己ニ組合ノ金銭ノ出納保管ヲ爲ス職務權限ヲ有スル以上ハ其ノ組合ノ爲他人ヨリ受取リテ所持スル金銭ハ理事ノ業務上ノ占有ニ屬スルモノトス

第三十二條

○産業組合ノ理事ハ組合ノ書記ヲシテ金銭ノ出納保管ノ事務ヲ擔當セシメタル場合ニ於テモ自己ニ組合ノ金銭ノ出納保管ヲ爲ス職務權限ヲ有

一三
三六〇

二三
六六六

一五
一三五

二三
四〇四

スル以上ハ其ノ組合ノ爲他人ヨリ受取リテ所持スル金錢ハ理事ノ業務上ノ占有ニ屬スルモノトス

蠶絲業法

第一條

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

第二條

○蠶絲業法及同法施行規則ニ於ケル蠶種製造者トハ地方長官ノ免許ヲ受ケテ蠶種製造ヲ常業トスル者ヲ指稱シ其ノ免許ヲ受ケサル製造者ヲ包含セス

第四條

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

第五條

○蠶絲業法及同法施行規則ニ於ケル蠶種製造者トハ地方長官ノ免許ヲ受

一三	一五	一三	一三
二	五	二	二
四〇四	七三	一六	七三

ケテ蠶種製造ヲ常業トスル者ヲ指稱シ其ノ免許ヲ受ケサル製造者ヲ包含セス

第七條

○蠶絲業法及同法施行規則ニ於ケル蠶種製造者トハ地方長官ノ免許ヲ受ケテ蠶種製造ヲ常業トスル者ヲ指稱シ其ノ免許ヲ受ケサル製造者ヲ包含セス

第十六條

○蠶絲業法及同法施行規則ニ於ケル蠶種製造者トハ地方長官ノ免許ヲ受ケテ蠶種製造ヲ常業トスル者ヲ指稱シ其ノ免許ヲ受ケサル製造者ヲ包含セス

第二十五條

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

第三十九條

○蠶絲業法及同法施行規則ニ於ケル蠶種製造者トハ地方長官ノ免許ヲ受ケテ蠶種製造ヲ常業トスル者ヲ指稱シ其ノ免許ヲ受ケサル製造者ヲ包含セス

一三	一五	一三	一三
二	五	二	二
一六	七三	一六	七三

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

第四十四條

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

蠶絲業法施行規則

第六條

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

第七條

○蠶絲業法施行規則第七十四條第一項ニ依リ届出テタル桑苗生産豫定數ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ讓受人カ桑苗ヲ圃場ヨリ他ニ移轉シタル場合ナルト未タ之ヲ他ニ移轉セサル場合ナルトヲ問ハス同條第二項第七條ニ依リ生産豫定數ノ變更トシテ之ヲ地方長官ニ届出ツヘキモノトス

第十二條

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

第三十三條

○蠶絲業法及同法施行規則ニ於ケル蠶種製造者トハ地方長官ノ免許ヲ受ケテ蠶種製造ヲ常業トスル者ヲ指稱シ其ノ免許ヲ受ケサル製造者ヲ包含セス

第六十四條

○蠶絲業法並同法施行規則ニ生繭ノ取扱ヲ爲ス者トハ汎ク事實上生繭ノ取扱ヲ爲ス者ヲ指稱スルモノトス

第七十四條

○蠶絲業法施行規則第七十四條第一項ニ依リ届出テタル桑苗生産豫定數ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ讓受人カ桑苗ヲ圃場ヨリ他ニ移轉シタル場合ナルト未タ之ヲ他ニ移轉セサル場合ナルトヲ問ハス同條第二項第七條ニ依リ生産豫定數ノ變更トシテ之ヲ地方長官ニ届出ツヘキモノトス

第九十九條

一五	一五	二三	一五
五	五	二	五
二八七	七二	二一六	七二

一五	一五	一五	一五
五	五	五	五
二八七	七二	七二	七二

○蠶絲業法及同法施行規則ニ於ケル蠶種製造者トハ地方長官ノ免許ヲ受ケテ蠶種製造ヲ常業トスル者ヲ指稱シ其ノ免許ヲ受ケサル製造者ヲ包含セス

○蠶絲業法施行規則第七十四條第一項ニ依リ届出ヲタル桑苗生産豫定數ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ讓受人カ桑苗ヲ圃場ヨリ他ニ移轉シタル場合ナルト未タ之ヲ他ニ移轉セサル場合ナルトヲ問ハス同條第二項第七條ニ依リ生産豫定數ノ變更トシテ之ヲ地方長官ニ届出ツヘキモノトス

汽車従事員服務規程

(明治四十四年十一月鐵道院達第八七六號)

第一條

○驛長其ノ他鐵道係員ハ列車ノ運轉ニ關シ危險發生ヲ防止スルニ付法律上慣習上若ハ條理上必要ナル注意義務ヲ負フモノニシテ單ニ行政上ノ取締規程ヲ遵守スルノミニ依リ其ノ義務ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス

第二十二條

○驛長其ノ他鐵道係員ハ列車ノ運轉ニ關シ危險發生ヲ防止スルニ付法律上慣習上若ハ條理上必要ナル注意義務ヲ負フモノニシテ單ニ行政上ノ取締規程ヲ遵守スルノミニ依リ其ノ義務ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス

第二十六條

○驛長其ノ他鐵道係員ハ列車ノ運轉ニ關シ危險發生ヲ防止スルニ付法律上慣習上若ハ條理上必要ナル注意義務ヲ負フモノニシテ單ニ行政上ノ取締規程ヲ遵守スルノミニ依リ其ノ義務ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス

第三十九條

○一定ノ業務ニ従事スル者ハ其ノ業務ノ性質ニ照シ危害ヲ防止スル爲相常ナル一切ノ注意ヲ爲スヘキ義務ヲ有スルモノニシテ法令上明文ナキ場合ト雖モ此ノ義務ヲ免ルルモノニ非ス

機船底曳網漁業取締規則

第二條

○機船底曳網漁業取締規則第十八條ニ依リ追徴スヘキ漁獲物ノ價額ハ犯人カ該漁獲物ヲ賣却シタル代金ニ依リテ之ヲ認定スルモ違法ニ非ス

一三	一三	一四	四
三	二	四	四
二	二八七	一三五	一三五

一四	一五	一三
四	五	二
一三五	二八七	一六

第七條

○螺旋推進器ヲ備フル發動機船ニ取付ケタル桁引網ヲ使用シテ漁業ヲ爲スハ大正十年農商務省令第三十一號機船底曳網漁業取締規則ニ所謂機船底曳網漁業ニ該當スルモノトス

第十八條

○機船底曳網漁業取締規則第十八條ニ依リ追徴スヘキ漁獲物ノ價額ハ犯人カ該漁獲物ヲ賣却シタル代金ニ依リテ之ヲ認定スルモ違法ニ非ス

第十九條

○螺旋推進器ヲ備フル發動機船ニ取付ケタル桁引網ヲ使用シテ漁業ヲ爲スハ大正十年農商務省令第三十一號機船底曳網漁業取締規則ニ所謂機船底曳網漁業ニ該當スルモノトス

漁業法

第一條

○漁業專用區域ノ海中自然ニ散在スル岩石ニ海草ノ繁殖ヲ容易ナラシムル爲漁業權者カ或種ノ人工ヲ加ヘ又ハ其ノ附近ニ監守者ヲ置キ他人ノ

一三	三	三五
一三	三	二
一三	三	七五

之ヲ取去ルヲ防止スルノ手段ヲ施シタリトスルモ之ニ因リ其ノ岩石ニ附着シ來ル海草ハ直ニ漁業權者ノ所有ニ歸スルモノニ非ス他人カ不法ニ之ヲ領得スル行爲ハ漁業權ノ侵害タルハ勿論ナレトモ竊盜罪ヲ構成スルコトナシ

第四條

○漁業權ハ行政官廳ノ漁業免許ノ時ヲ以テ發生ス

○漁業權存續期間ノ滿了前更新ノ申請ヲ爲スモ行政官廳ニ於テ免許ヲ爲ササル限ハ後ノ漁業權ハ發生スルコトナク初ノ漁業權ノ存續期間滿了後數十日ヲ經テ行政官廳カ更新ノ申請ニ對スル免許ヲ爲シタル場合ニハ前ノ漁業權ノ消滅後其ノ免許以前ノ時期ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ漁業法第四條ノ漁業ヲ爲シタル行爲ハ同法第五十八條ノ罪ヲ構成スルモノトス

第三十四條

○三重縣令鯉巾着網漁業取締規則第二條ハ其ノ規定セル區域内ノ該漁業ハ絶對ニ禁止セルモノニシテ知事ノ裁量ヲ許ササル趣旨ナリト解スヘク之ニ抵觸スル免許鑑札ハ當然無効ナリトス

○三重縣令鯉巾着網漁業取締規則第九條第一項ノ漁獲物及漁具ノ沒收及

二	二	二	一	一六三
二	一	一	一	三四七
二	一	一	一	三四七
二	一	一	一	三四三

追徴ニ關スル規定ハ漁業法第三十四條ニ基キ發セラレタル命令ニシテ
刑法第八條但書ニ所謂特別規定ニ該當シ同規則第一條又ハ第二條ニ違
反シタル場合ニハ其ノ漁獲物及漁具カ其ノ違反者ノ所有ナルト單ニ其
ノ所持ニ係ルトヲ問ハス均シク之ヲ沒收スル趣旨ナリトス

第三十六條

○漁業法第三十六條ノ規定ハ水産動植物採捕ノ爲ニ爆發物ヲ使用シタル
者カ漁業者タルト否トヲ問ハス適用セララルモノトス

第五十八條

○漁業權ハ行政官廳ノ漁業免許ノ時ヲ以テ發生ス

○漁業權存續期間ノ滿了前更新ノ申請ヲ爲スモ行政官廳ニ於テ免許ヲ爲
ササル限ハ後ノ漁業權ハ發生スルコトナク初ノ漁業權ノ存續期間滿了
後數十日ヲ經テ行政官廳カ更新ノ申請ニ對スル免許ヲ爲シタル場合ニ
ハ前ノ漁業權ノ消滅後其ノ免許以前ノ時期ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受
ケスシテ漁業法第四條ノ漁業ヲ爲シタル行爲ハ同法五十八條ノ罪ヲ構
成スルモノトス

○免許ヲ受ケタル漁場以外ノ水面ニ於テ漁具ヲ定置シ反覆シテ漁類ヲ捕
フル行爲ハ之ヲ包括的一罪トシテ處斷スヘク連續一罪トシテ處斷スヘ

二	二	二
一	一	一
三四七	三四七	六五〇

キモノニ非ス

第六十條

○漁業専用區域ノ海中自然ニ散在スル岩石ニ海草ノ繁殖ヲ容易ナラシム
ル爲漁業權者カ或種ノ人工ヲ加ヘ又ハ其ノ附近ニ監守者ヲ置キ他人ノ
之ヲ取去ルヲ防止スルノ手段ヲ施シタルトスルモノニ因リ其ノ岩石ニ
附着シ來ル海草ハ直ニ漁業權者ノ所有ニ歸スルモノニ非ス他人カ不法
ニ之ヲ領得スル行爲ハ漁業權ノ侵害タルハ勿論ナレトモ竊盜罪ヲ構成
スルコトナシ

一五
五
四五三

漁業法施行規則

第十條

○漁業専用區域ノ海中自然ニ散在スル岩石ニ海草ノ繁殖ヲ容易ナラシム
ル爲漁業權者カ或種ノ人工ヲ加ヘ又ハ其ノ附近ニ監守者ヲ置キ他人ノ
之ヲ取去ルヲ防止スルノ手段ヲ施シタルトスルモノニ依リ其ノ岩石ニ
附着シ來ル海草ハ直ニ漁業權者ノ所有ニ歸スルモノニ非ス他人カ不法
ニ之ヲ領得スル行爲ハ漁業權ノ侵害タルハ勿論ナレトモ竊盜罪ヲ構成

二
一
六三

スルコトナシ

第十一條

○漁業専用區域ノ海中自然ニ散在スル岩石ニ海草ノ繁殖ヲ容易ナラシムル爲漁業權者カ或種ノ人工ヲ加ヘ又ハ其ノ附近ニ監守者ヲ置キ他人ノ之ヲ取去ルヲ防止スルノ手段ヲ施シタリトスルモノニ因リ其ノ岩石ニ附着シ來ル海草ハ直ニ漁業權者ノ所有ニ歸スルモノニ非ス他人カ不法ニ之ヲ領得スル行爲ハ漁業權ノ侵害タルハ勿論ナレトモ竊盜罪ヲ構成スルコトナシ

第四十六條

○爆發物ハ漁業法施行規則第四十六條ニ所謂有毒物ニ非ス
○水産動植物ヲ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産動植物採捕ノ方法ヲ行ヒタル以上實際之ヲ採捕シタルト否トヲ問ハス漁業法施行規則第四十六條ノ犯罪ヲ構成ス
○漁業法施行規則第四十六條ニ所謂水産動物ノ採捕トハ捕獲ノ目的ヲ以テ有毒物ヲ使用シタル者カ現實ニ其ノ動物ヲ占有シタル場合ノミナラス有毒物ノ使用ニ依リ動物ヲ疲憊斃死セシメ容易ニ捕捉シ得ル状態ニ置キタル場合ヲモ指稱スルモノトス

二
一六三

二
一六三

二
一六〇

一四
一三二

一五
四九七

第四十七條

○有毒物ノ使用ニ依ル水産動植物採捕ノ場合ニ於テハ自ラ有毒物ヲ使用シタルト否トヲ問ハス之ヲ採捕所持シタルモノハ同規則第四十七條ニ違反シタルモノトス
○漁業法施行規則第四十六條ニ所謂水産動物ノ採捕トハ捕獲ノ目的ヲ以テ有毒物ヲ使用シタル者カ現實ニ其ノ動物ヲ占有シタル場合ノミナラス有毒物ノ使用ニ依リ動物ヲ疲憊斃死セシメ容易ニ捕捉シ得ル状態ニ置キタル場合ヲモ指稱スルモノトス

第六十條

○水産動植物ヲ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産動植物採捕ノ方法ヲ行ヒタル以上實際之ヲ採捕シタルト否トヲ問ハス漁業法施行規則第四十六條ノ犯罪ヲ構成ス
○有毒物ノ使用ニ依ル水産動植物採捕ノ場合ニ於テハ自ラ有毒物ヲ使用シタルト否トヲ問ハス之ヲ採捕所持シタルモノハ同規則第四十七條ニ違反シタルモノトス
○漁業法施行規則第四十六條ニ所謂水産動物ノ採捕トハ捕獲ノ目的ヲ以テ有毒物ヲ使用シタル者カ現實ニ其ノ動物ヲ占有シタル場合ノミナラ

一四
一三二

一五
四九七

一四
一三二

一四
一三二

ス有毒物ノ使用ニ依リ動物ヲ疲憊斃死セシメ容易ニ捕捉シ得ル状態ニ置キタル場合ヲモ指稱スルモノトス

行政執行法

第二條

○巡查賭博ノ現行犯アリト認ムルトキハ日出前日没後ト雖現居住者ノ意ニ反シテ其ノ邸宅ニ入り犯罪ヲ檢舉スルコトヲ得ルモノトス

行政警察規則

第一條

○巡查カ其ノ上官ノ命ヲ受ケ治安維持ノ爲地主及小作人間ニ於ケル爭議ノ狀況ヲ視察シ之カ調停ヲ試ミ當事者ヲシテ任意ニ其ノ爭議ヲ解決セシムルハ職務ノ範圍内ニ屬スルモノトス

第三條

○巡查カ酌婦ノ身元調ヲ爲ス爲村役場ニ就キ戸籍簿ヲ閱覽スル場合ニ於

一五
五
四九七

二
一
八四五

一三
三
三

テ之ヲ妨害スル意思ヲ以テ暴行ヲ加フルトキハ其ノ閱覽ヲ阻止スルニ至ラスト雖刑法第九十五條ノ罪ヲ構成スルモノトス
○巡查カ其ノ上官ノ命ヲ受ケ治安維持ノ爲地主及小作人間ニ於ケル爭議ノ狀況ヲ視察シ之カ調停ヲ試ミ當事者ヲシテ任意ニ其ノ爭議ヲ解決セシムルハ職務ノ範圍内ニ屬スルモノトス

第五條

○巡查カ酌婦ノ身元調ヲ爲ス爲村役場ニ就キ戸籍簿ヲ閱覽スル場合ニ於テ之ヲ妨害スル意思ヲ以テ暴行ヲ加フルトキハ其ノ閱覽ヲ阻止スルニ至ラスト雖刑法第九十五條ノ罪ヲ構成スルモノトス

第十三條

○巡查カ其ノ上官ノ命ヲ受ケ治安維持ノ爲地主及小作人間ニ於ケル爭議ノ狀況ヲ視察シ之カ調停ヲ試ミ當事者ヲシテ任意ニ其ノ爭議ヲ解決セシムルハ職務ノ範圍内ニ屬スルモノトス

舊 商 法

第一千五十一條

一三
二
七九〇

一三
三
三

一三
二
七九〇

一三
三
三

○舊商法破産編施行當時有罪行為終了シ破産法施行後破産宣告確定シタル事件ニ付テハ新舊兩法ヲ對照比較シテ其ノ輕キモノヲ適用スヘク單ニ新法ノミヲ適用スヘキモノニ非ス

第一千五十二條

○舊商法破産編施行當時有罪行為終了シ破産法施行後破産宣告確定シタル事件ニ付テハ新舊兩法ヲ對照比較シテ其ノ輕キモノヲ適用スヘク單ニ新法ノミヲ適用スヘキモノニ非ス

休日ニ關スル件

(大正元年勅令第十九號)

○刑事訴訟法第八十一條末項ニ所謂一般ノ休日ハ法令ニ依リ一般ノ休日トシテ指定セラレタルモノヲ指稱スルモノニシテ大正十四年五月十一日ノ如ク單ニ諸官員ニ休暇ヲ賜ハリタル日ヲ包含スルモノニ非ス

有價證券割賦販賣業法

一五	五	五三五
一四	四	三三三

第一條

○數枚ノ有價證券ヲ一括シテ賣買ノ目的トナシ其ノ證據金ヲ徵收シ代金ヲ分割シテ數回ニ受入レ有價證券ノ給付ヲ爲スモノハ縱令一枚ノ代金ニ相當スル金額ヲ受入ルル毎ニ一枚ノ證券ヲ給付スルトキト雖有價證券割賦販賣業法第一條ニ所謂有價證券割賦販賣ニ該當ス

第二條

○數枚ノ有價證券ヲ一括シテ賣買ノ目的トナシ其ノ證據金ヲ徵收シ代金ヲ分割シテ數回ニ受入レ有價證券ノ給付ヲ爲スモノハ縱令一枚ノ代金ニ相當スル金額ヲ受入ルル毎ニ一枚ノ證券ヲ給付スルトキト雖有價證券割賦販賣業法第一條ニ所謂有價證券割賦販賣ニ該當ス

第十七條

○數枚ノ有價證券ヲ一括シテ賣買ノ目的トナシ其ノ證據金ヲ徵收シ代金ヲ分割シテ數回ニ受入レ有價證券ノ給付ヲ爲スモノハ縱令一枚ノ代金ニ相當スル金額ヲ受入ルル毎ニ一枚ノ證券ヲ給付スルトキト雖有價證券割賦販賣業法第一條ニ所謂有價證券割賦販賣ニ該當ス

有罪破産者ノ處分ニ關スル件

一三	三	一〇七
一三	三	一〇七

(明治二十三年法律第一百號)

○舊商法破産編施行當時有罪行為終了シ破産法施行後破産宣告確定シタル事件ニ付テハ新舊兩法ヲ對照比較シテ其ノ輕キモノヲ適用スヘク單ニ新法ノミヲ適用スヘキモノニ非ス

遊技場營業取締規則

(大正元年大阪府令第十二號)

第二條

○大阪府令遊技場營業取締規則第九條第一號ノ違反者タルニハ自己ノ計算ニ於テ遊技場營業ヲ爲シタル者タラサルヘカラス其ノ遊技ニ關スル業務取扱者ノ如キハ同條ノ違反者トシテ罰スヘキモノニ非ス

第九條

○大阪府令遊技場營業取締規則第九條第一號ノ違反者タルニハ自己ノ計算ニ於テ遊技場營業ヲ爲シタル者タラサルヘカラス其ノ遊技ニ關スル業務ノ取扱者ノ如キハ同條ノ違反者トシテ罰スヘキモノニ非ス

一五
五三五

一四
四
五三三

一四
四
五三三

郵便法

第五十三條

○郵便法第五十三條第一項ニ所謂正當ノ事由ナキモノタルニハ必シモ通信ヲ阻害スル目的ニ出ツルコトヲ要セス郵便事務取扱ノ煩ヲ厭ヒ故ラニ郵便物ヲ放置スルカ如キコトモ亦之ニ該當スルモノトス

二
一
六五四

郵便爲替法

第一條

○電信爲替證書ハ一ノ有價證券ニシテ刑法ノ詐欺罪ニ於ケル財物ニ該當ス

一三
二
三〇三

○電信法第三十三條ノ虛偽通信ノ罪ハ刑法第二百四十六條ノ詐欺罪ノ特別罪ニ非ス從テ電信ニ依リ虛偽ノ通信ヲ發シ因テ郵便吏員ヲ欺罔シ電信爲替證書ヲ騙取シタル行爲ハ電信法第三十三條竝ニ刑法第二百四十六條ニ該當シ刑法第五十四條第一項後段ノ適用ヲ受クヘキモノトス

一三
二
三〇三

第二條

○電信爲替證書ハ一ノ有價證券ニシテ刑法ノ詐欺罪ニ於ケル財物ニ該當ス

○電信法第三十三條ノ虛偽通信ノ罪ハ刑法第二百四十六條ノ詐欺罪ノ特別罪ニ非ス從テ電信ニ依リ虛偽ノ通信ヲ發シ因テ郵便吏員ヲ欺罔シ電信爲替證書ヲ騙取シタル行爲ハ電信法第三十三條並ニ刑法第二百四十六條ニ該當シ刑法第五十四條第一項後段ノ適用ヲ受クヘキモノトス

郵便爲替規則

第四十條

○電信法第三十三條第二項ニ所謂電報ハ電話ニ依ル通信ヲ包含セス

郵便切手類賣捌規則

第二條

○郵便局ノ通信事務員カ職務上郵便切手ヲ賣捌キ受領シタル代金ハ其ノ

一三	一三
二	二
三〇三	三〇三
一五	一五
五	五
九三	九三

業務上ノ占有ニ屬ス

郵便切手類及收入印紙賣捌規則

(大正十二年遞信省令第四十一號)

第七條

○三等郵便局又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ收入印紙賣捌規則第二條及第三條ニ依リテ郵便官署ヨリ收入印紙ノ賣渡ヲ受クルニ當リ成規ノ割引ヲ受ケ得ルハ正當ノ手續ニ依リ賣渡ノ請求ヲ爲ス場合ニ限り三等郵便局長若ハ收入印紙賣捌人カ不正ノ手段ヲ用キ收入印紙ノ拂下ヲ受ケ因テ國庫ニ損害ヲ被ラシメタル場合ハ右規定ノ利益ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十二條

○三等郵便局又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ收入印紙賣捌規則第二條及第三條ニ依リテ郵便官署ヨリ收入印紙ノ賣渡ヲ受クルニ當リ成規ノ割引ヲ受ケ得ルハ正當ノ手續ニ依リ賣渡ノ請求ヲ爲ス場合ニ限り三等郵便局長若ハ收入印紙賣捌人カ不正ノ手段ヲ用キ收入印紙ノ拂下ヲ受ケ因テ

二	二
一	一
二二	二二
一三	一三
二	二
二四八	二四八

國庫ニ損害ヲ被ラシメタル場合ハ右規定ノ利益ヲ受クルヲ得サルモノトス

三重縣令鯉巾着網漁業取締規則

第二條

○三重縣令鯉巾着網漁業取締規則第二條ハ其ノ規定セル區域内ノ該漁業ハ絕對ニ禁止セルモノニシテ知事ノ裁量ヲ許ササル趣旨ナリト解スヘク之ニ抵觸スル免許鑑札ハ當然無効ナリトス

○三重縣令鯉巾着網漁業取締規則第九條第一項ノ漁獲物及漁具ノ沒收及追徴ニ關スル規定ハ漁業法第三十四條ニ基キ發セラレタル命令ニシテ刑法第八條但書ニ所謂特別規定ニ該當シ同規則第一條又ハ第二條ニ違反シタル場合ニハ其ノ漁獲物及漁具カ其ノ違反者ノ所有ナルト單ニ其ノ所持ニ係ルトヲ問ハス均シク之ヲ沒收スル趣旨ナリトス

民法

一三
二四八

二
一四三

二
一四三

第四十四條

○法人ノ代表者法人ノ利益ノ爲ニ罪ヲ犯ストキハ其ノ者ニ犯罪ヲ認ムヘキモノニシテ之ヲ以テ法人ノ犯罪ト爲スヘキモノニ非ス

一三
二九五

第九十五條

○詐欺ニ因ル意思表示カ無効ナルト取消シ得ヘキモノナルトハ詐欺罪ノ成立ニ異リタル影響ヲ及ホスモノニ非ス

一三
二八三

第九十六條

○詐欺ニ因ル意思表示カ無効ナルト取消シ得ヘキモノナルトハ詐欺罪ノ成立ニ異リタル影響ヲ及ホスモノニ非ス

一三
二八三

第九十九條

○代理人カ代理權ヲ濫用シ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルトキハ本人カ之ニ付民事上責ニ任スヘキトキト雖詐欺罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

二
一六〇

第一百條

○代理人カ代理權ヲ濫用シ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルトキハ本人カ之ニ付民事上責ニ任スヘキトキト雖詐欺罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

二
一六〇

第一百七十八條

○債權ノ讓受人ハ債權讓渡ノ通知カ債務者ニ對シテ爲サレタル場合ニ於

テモ既ニ債權證書ヲ取得シ其ノ引渡ヲ受ケタル以上ハ其ノ證書毀棄罪ノ被害者トシテ告訴權ヲ有ス

第九十二條

○竊取ノ時ヨリ二年内ニ盜品ヲ買受ケタル者ハ縱令民法第九十二條ノ要件ヲ充シタル者ヨリ買取リタルトキト雖苟モ其ノ盜品タルコトヲ知リタル以上ハ贓物故買罪成立スルモノトス

第九十三條

○竊取ノ時ヨリ二年内ニ盜品ヲ買受ケタル者ハ縱令民法第九十二條ノ要件ヲ充シタル者ヨリ買取リタルトキト雖苟モ其ノ盜品タルコトヲ知リタル以上ハ贓物故買罪成立スルモノトス

第二百四十六條

○盜伐シタル木材ニ付製材搬出等ノ作業ヲ施スモ民法第二百四十六條ニ所謂加工ニ非サルヲ以テ作業者ニ於テ其ノ所有權ヲ取得スルコトナク該木材ハ依然盜贓物タリ

第二百四十八條

○質權者カ其ノ權利ノ範圍内ニ於テ自己ノ債務ニ付質物ノ上ニ新ニ質權ヲ設定スルハ横領罪ヲ構成セサルモ其ノ權利ノ範圍ヲ超越シテ新ニ質

一三
三
三〇六

一五
五
一九二

一五
五
一九二

一三
三
三八

權ヲ設定スル場合ニ於テハ横領罪成立スルモノトス

第二百二十三條

○債權ノ目的物カ第三者ノ不法行爲ニ因リ滅失シタルカ爲履行不能ト爲リ債務カ消滅シタル場合ニ於テハ債權者ハ債務者カ不法行爲者ニ對シ有スル損害賠償請求權ノ移轉ヲ受ケ若ハ債務者ニ代位シテ其ノ權利ヲ行使スルノ方法ニ依ルコトヲ要セス債權ノ侵害ヲ理由トシ自己固有ノ權利ニ基キ直接ニ不法行爲者ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

第四百六十六條

○裏書讓渡ヲ禁止シタル約束手形ハ讓渡ニ因リ轉讓シタル場合ト雖私文書毀棄罪ノ目的タルコトヲ得

第四百六十七條

○裏書讓渡ヲ禁止シタル約束手形ハ讓渡ニ因リ轉讓シタル場合ト雖私文書毀棄罪ノ目的タルコトヲ得

第五百十四條

○被告甲カ乙及丙ニ對シテ金錢債務ヲ負擔シタル處丁ヲ恐喝シ同人ヲシテ借用人丁貸主乙ト爲シタル三口ノ借用證書各一通ヲ作成セシメ之ヲ

一四
四
四八四

一一
一
四一〇

一四
四
三〇一

一四
四
三〇一

乙ニ交付シタル場合ニ於テ丙ニ對スル右被告ノ債務ニ付丙ニ對シ何等ノ交渉ヲ爲ササル以上ハ甲ハ不法ニ其ノ債務ヲ免ルルト同時ニ乙ヲシテ財産上不法ニ利得セシメタルモノト謂フヲ得サルモノトス

第五百三十六條

○債權ノ目的物カ第三者ノ不法行爲ニ因リ滅失シタルカ爲履行不能ト爲リ債務カ消滅シタル場合ニ於テハ債權者ハ債務者カ不法行爲者ニ對シ有スル損害賠償請求權ノ移轉ヲ受ケ若ハ債務者ニ代位シテ其ノ權利ヲ行使スルノ方法ニ依ルコトヲ要セス債權ノ侵害ヲ理由トシ自己固有ノ權利ニ基キ直接ニ不法行爲者ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

第七百八條

○民事訴訟ニ關シ證人トシテ呼出ヲ受ケタル者カ裁判所ニ出頭スルヲ不利ナリトシ當事者ト示談シ之ニ金圓ヲ交付シ依テ證據方法ヲ拋棄セシメ若ハ訴ノ取下又ハ請求ノ認諾拋棄ヲ爲サシメ以テ出頭スルコトヲ免レタレハトテ之ヲ稱シテ民法第七百八條ニ所謂不法ノ給付ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

第七百九條

○債權ノ目的物カ第三者ノ不法行爲ニ因リ滅失シタルカ爲履行不能ト爲リ債務カ消滅シタル場合ニ於テハ債權者ハ債務者カ不法行爲者ニ對シ有スル損害賠償請求權ノ移轉ヲ受ケ若ハ債務者ニ代位シテ其ノ權利ヲ行使スルノ方法ニ依ルコトヲ要セス債權ノ侵害ヲ理由トシ自己固有ノ權利ニ基キ直接ニ不法行爲者ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○舊刑事訴訟法第十三條ニ規定スル要償ノ訴ハ當該裁判所ニ繫屬シタル場合ニ非サレハ之ヲ其裁判所ニ提起スルコトヲ得サルモ同一ノ事由ニ基キ損害ノ賠償ヲ請求スル訴ハ私訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ妨ケサルモノトス

○贓物カ被害者ノ所有ニ屬シ且回收可能ニシテ公訴判決ニ依リ被害者ニ還付スルノ言渡ヲ爲ス場合ニハ被害者ハ其ノ贓物ノ價額全部ニ相當スル損害ヲ被リタルモノト謂フヲ得サルヲ以テ附帶私訴ニ於ケル全部ノ損害賠償ノ請求ハ失當タルヲ免レサルモノトス

○公訴事實ニ因リ又ハ公訴事實ト他ノ事由ト相俟テ損害ヲ生セシメタリトスルトキハ被害者ハ公訴ニ附帶シテ賠償請求ノ私訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

二三
二二〇七

二
一四〇

一三
一三四

二
一四〇

三
三五九

二
五七六

一三
七三七

第七百一十一條

○犯罪ニ因リ生命ヲ害セラレタル者ノ父母、配偶者及子ハ慰籍料ノ請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

第七百十五條

○民法第七百十五條ニ所謂被用者カ事業ノ執行ニ付第三者ニ加ヘタル損害トハ使用者ノ事業ノ範圍ニ屬スル行爲又ハ之ト關聯シテ一體ヲ爲シ不可分ノ關係ニ在ル行爲ニ因リ生シタル損害ヲ指稱スルモノトス
○旅客カ旅店宿泊中旅店ノ使用人ニ其ノ用務ノ處理ヲ命シタル場合ニ旅店內ニ於ケル使用人ノ地位及職務ノ性質ヨリ見テ旅客カ其ノ用務ヲ處理セシメタルコトカ相當ト認メラレ旅客ニ不注意ノ責ムヘキモノ無キニ於テハ旅店主ハ使用人カ其ノ用務ノ處理ニ付旅客ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ義務アルモノニシテ唯タ其ノ使用人ノ選任及監督ニ付怠慢ナカリシ場合ニ於テノミ其ノ義務ヲ免ルルニ過キサルモノトス

第七百八十八條

○夫婦カ相互ニ貞操義務ヲ負フハ其ノ共同生活ノ必要條件ニシテ夫ハ當然婦ニ對シテ貞操義務ヲ負フモノトス

一四	四六三
二	一七六七
一三	二六四三
一五	五三八

第八百十三條

○妻ノ姦通ヲ宥恕シタルトキハ姦通罪ニ於ケル夫ノ告訴權ハ消滅スルモノトス

第八百十四條

○妻ノ姦通ヲ宥恕シタルトキハ姦通罪ニ於ケル夫ノ告訴權ハ消滅スルモノトス

一五	一〇五
一五	一〇五
一五	一〇五

民事訴訟法

第八十四條

○訴訟費用ノ辨濟ヲ求ムル權利消滅後ニ得タル費用額確定決定ヲ執達吏ニ交付シ正當ナル權利ヲ有スルモノノ如ク裝ヒ之カ執行ヲ委任シテ訴訟費用負擔者ノ財産ニ對シ強制執行ヲ爲ス行爲ハ詐欺罪ノ著手ナリトス

第四百十六條

○甲乙兩辯護士ノ共同事務所ニ使用スル事務員ハ縱令甲辯護士ノ雇入レタルモノニシテ乙辯護士トノ間ニ雇傭關係ナキモノトスルモ裁判所カ

二	一五〇七
一	一五〇七

乙辯護士ニ對シテ送達スル書類ヲ同辯護士ノ爲受取ルコトヲ得ルモノトス

○數人ノ辯護士カ共同事務所ヲ有シ共同シテ訴訟事件ヲ擔任シタル場合ニ於テハ互ニ代理シテ其ノ訴訟ニ關スル書類ノ送達ヲ受クルノ權限ヲ有スルモノトス

○裁判所在有地ニ住居ヲ有スル辯護人カ書面ヲ以テ其ノ住居ヲ裁判所ニ届出テタル場合ト雖書類ノ送達ヲ受クル爲執達吏役場ニ對シ出張事務所ヲ届出テタルトキハ同辯護人ニ對スル書類ノ送達ヲ右事務所ニ於テ之ヲ爲スモ其ノ效アルモノトス

第三百七條

○親族關係上證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ者ト雖既ニ民事訴訟法ニ從ヒ證人トシテ宣誓シタル上虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ其ノ行爲ハ偽證罪ヲ構成スルモノトス

○民事訴訟法第三百七條ニ所謂良心ニ從ヒトハ社會ノ道義上ノ通念ニ於テ公平ナリトスル所ノモノヲ主觀的ニモ公正ナリトスル其ノ者ノ心的狀態ニ從フコトヲ指スモノトス過ヲ改メスシテ非ヲ遂クルカ如キハ社會ノ通念ニ於テ公正トスル所ノモノニ非サルカ故ニ縱令主觀的ニ之ヲ

二三
二
三七五

二三
二
二〇三

一五
五
二五八

二三
二
三七七

公正ナリトスル其ノ者ノ心的狀態ニ從ヒタリトスルモ爲ニ良心ニ從ヒタルモノト爲シ得ヘキニ非ス

第五百六十六條

○差押カ效力ヲ生セザリシ場合ニ於テハ差押物ノ保管ヲ命セラレタル者カ之ヲ脱漏シタルトキト雖刑法第九十六條ノ差押標示無効ノ罪成立セサルモノトス

第七百四十八條

○差押カ效力ヲ生セザリシ場合ニ於テハ差押物ノ保管ヲ命セラレタル者カ之ヲ脱漏シタルトキト雖刑法第九十六條ノ差押標示無効ノ罪成立セサルモノトス

市制

第八十五條

○市ノ設置ニ係ル公設市場ノ經營管理ハ市ノ事業ニシテ市長ノ擔任事務ニ屬スルモノトス

第二百二條

二三
二
九五五

一五
五
五五一

一五
五
五五一

二
一
四

- 市ノ設置ニ係ル公設市場ノ經營管理ハ市ノ事業ニシテ市長ノ擔任事務ニ屬スルモノトス
- 市書記カ市長ノ命ニ依リ公設市場ノ指定販賣人ヲ指揮監督スルハ其ノ職務ニ屬スルモノニシテ此ノ職務ニ關シ販賣人ヨリ報酬ヲ受ケタルトキハ收賄罪ヲ構成スルモノトス

齒科醫師法

第一條

○齒科醫師ノ免許ハ免許證ノ下付ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第七條

○齒科醫師法第七條ハ齒科醫師カ其ノ技能療法ニ關スル業務上ノ廣告ヲ爲ス以上ハ必シモ技能ノ優秀ナルコト又ハ療法ノ特種ノモノナルコトニ關セスシテ普通ノ技能及療法ニ關スル場合ト雖亦同シク之ヲ禁止スル趣旨ナリトス

第十一條

○齒科醫師法第七條ハ齒科醫師カ其ノ技能療法ニ關スル業務上ノ廣告ヲ

二	二
一	一
四	四
三	三
二	二
三	三
七	七
八	八
〇	〇

爲ス以上ハ必シモ技能ノ優秀ナルコト又ハ療法ノ特種ノモノナルコトニ關セスシテ普通ノ技能及療法ニ關スル場合ト雖亦同シク之ヲ禁止スル趣旨ナリトス

○齒科醫師ノ免許ハ免許證ノ下付ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

齒科醫師法施行規則

第一條

○齒科醫師ノ免許ハ免許證ノ下付ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

死亡診斷書記載例

(明治三十三年內務省令第四十一號)

○醫師カ樹上ヨリ墜落シタル者ニ付公務所ニ提出スヘキ死亡證書ヲ作成スルニ際リ故意ニ此ノ原因ヲ記載セス單ニ其ノ者カ腦溢血ニ因リ病死シタル旨ヲ記載スルトキハ刑法第百六十條ノ罪ヲ構成ス

一	一
三	三
七	七
八	八
〇	〇
三	三
七	七
八	八
〇	〇

屍體解剖ニ關スル件

(明治十年太政官布告第二十二號)

○死體發掘ノ手續違法ナリトスルモ明治十年太政官布告第二十二號ニ依リテ作成セラレタル死體解剖檢案書ハ有效ニシテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得

一三
二
六四〇

自動車取締令 (大正八年內務省令第一號)

第十五條

○自動車ノ運轉ヲ營業トスル法人カ運轉手タル免許ヲ受ケサル者ヲ使用シ其ノ營業用自動車ヲ運轉セシメタルトキハ自動車取締令第三十二條及第二十八條ニ依リ法人ニ對シ同令第十五條違反ノ制裁ヲ科スヘク同令違反ノ教唆者トシテ處斷スヘキモノニ非ス

○自動車取締令第三十二條第一項ハ自動車ノ運轉ヲ業務ト爲ス法人ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ同令ニ違反シタル如キ場合ハ其ノ罰則ヲ直ニ法

一三
二
三

人ニ適用スヘク法人カ其ノ選任監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタル場合ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

第二十五條

○自動車取締令第二十五條第一項ノ自動車ニ依ル人ノ傷害又ハ物件ノ損壞ハ運轉中ノ自動車ニ因リ生シタル總テノ場合ヲ包含スルモノニシテ自動車ヲ運轉スル者ニ故意過失アリタルト否トヲ問ハサルモノトス

一三
三
二七六

第二十七條

○自動車取締令第二十五條第一項ノ自動車ニ依ル人ノ傷害又ハ物件ノ損壞ハ運轉中ノ自動車ニ因リ生シタル總テノ場合ヲ包含スルモノニシテ自動車ヲ運轉スル者ニ故意過失アリタルト否トヲ問ハサルモノトス

一五
五
五八六

第二十八條

○自動車ノ運轉ヲ營業トスル法人カ運轉手タル免許ヲ受ケサル者ヲ使用シ其ノ營業用自動車ヲ運轉セシメタルトキハ自動車取締令第三十二條及第二十八條ニ依リ法人ニ對シ同令第十五條違反ノ制裁ヲ科スヘク同令違反ノ教唆者トシテ處斷スヘキモノニ非ス

一三
二
三

○自動車取締令第三十二條第一項ハ自動車ノ運轉ヲ業務ト爲ス法人ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ同令ニ違反シタル如キ場合ハ其ノ罰則ヲ直ニ法

人ニ適用スヘク法人カ其ノ選任監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタル場合ナ
ルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

○自動車取締令第二十五條第一項ノ自動車ニ依ル人ノ傷害又ハ物件ノ損
壞ハ運轉中ノ自動車ニ因リ生シタル總テノ場合ヲ包含スルモノニシテ
自動車ヲ運轉スル者ニ故意過失アリタルト否トヲ問ハサルモノトス

第三十二條

○自動車ノ運轉ヲ營業トスル法人カ運轉手タル免許ヲ受ケサル者ヲ使用
シ其ノ營業用自動車ヲ運轉セシメタルトキハ自動車取締令第三十二條
及第二十八條ニ依リ法人ニ對シ同令第十五條違反ノ制裁ヲ科スヘク同
令違反ノ教唆者トシテ處斷スヘキモノニ非ス

○自動車取締令第三十二條第一項ハ自動車ノ運轉ヲ業務ト爲ス法人ノ從
業者カ其ノ業務ニ關シ同令ニ違反シタル如キ場合ハ其ノ罰則ヲ直ニ法
人ニ適用スヘク法人カ其ノ選任監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタル場合ナ
ルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

自動車取締令施行細則

(大正八年警視廳令第八號)

第三十七條

○大正八年警視廳令第八號自動車取締令施行細則第三十七條ノ自動車運
轉手ノ就業中遵守スヘキ事項ノ規定ハ其ノ注意義務ヲ限定シタルニ非
スシテ例示ニ過キササルモノトス

質屋取締法

第五條

○質契約ノ證タル質札又ハ通帳ノ交付ヲ受クルト否トハ權利者タル質置
主ノ隨意ニ屬シ其ノ交付ヲ受クルコトヲ強制セラレヘキモノニ非ス從
テ質置主ニ於テ自發的ニ質札又ハ通帳ヲ要セサル旨ノ意思ヲ明示シタ
ル場合ニハ之ヲ交付セサルモ質屋取締法第五條第二項第二十三條ノ制
裁ヲ受クヘキモノニ非ス

第二十三條

○質契約ノ證タル質札又ハ通帳ノ交付ヲ受クルト否トハ權利者タル質置

二三
三
二七六

一五
五
五八六

一三
二
三

一三
三
二七六

一四
四
五七〇

一三
二
六〇二

主ノ随意ニ屬シ其ノ交付ヲ受クルコトヲ強制セラルヘキモノニ非ス從テ質置主ニ於テ自發的ニ質札又ハ通帳ヲ要セサル旨ノ意思ヲ明示シタル場合ニハ之ヲ交付セサルモ質屋取締法第五條第二項第二十三條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス

狩獵法

第一條

○野生ノ狸ヲ發見シタル者カ狩獵ノ目的ヲ以テ之ヲ射擊シ追跡シテ狹隘ナル岩窟中ニ竄入セシメ石塊ヲ以テ其ノ入口ヲ閉塞シ逸走スルコト能ハサル施設ヲ爲シタル所爲ハ狸ニ對シテ事實上ノ支配力ヲ獲得シ確實ニ之ヲ先占シタルモノニシテ狩獵法ニ所謂捕獲ニ外ナラス

第三條

○狩獵トハ狩獵法ニ定メタル銃器其ノ他ノ獵具ヲ以テ鳥獸捕獲ノ方法ヲ行フコトヲ謂フ

○狩獵ノ目的ヲ以テ公道ニ於テ銃彈ヲ發射スルトキハ其ノ目的タル鳥獸カ公道ニ在ルト否トヲ問ハス其ノ鳥獸ヲ捕獲シタルト否トニ關ラズ狩

獵法第十一條第三號ニ違背スルモノトス

○大正八年八月農商務省令第二十八號狩獵法施行規則施行當時ニ於テ狩獵免許ヲ受ケス箱罌ヲ使用シテ狩獵鳥獸ヲ捕獲スルモ狩獵法第三條第二十一條第一項第一號ニ依リ處罰スルコトヲ得サルモノトス

第五條

○狩獵法ニ於テ捕獲ヲ禁シタル鼯鼠ヲ其ノ禁制ナキ他ノ動物ナリト錯覺シテ捕獲シタルトキハ即チ罪ヲ犯ス意ナキ行爲ト謂フヲ得レトモ方言も或ハ法律ニ於テ捕獲ヲ禁スル鼯鼠ナルコトヲ知ラス之ヲ捕獲スルモ罪ト爲ラスト信シテ捕獲シタルトキハ法律ノ不知ニ該當スルモノニシテ罪ヲ犯ス意ナシト爲スヲ得サルモノトス

○鳥獸ヲ捕獲スル目的ヲ以テ鳥獸ニ對シ裝彈シタル銃器ヲ擬シタル以上ハ銃彈ヲ發射シタルト否トヲ問ハス狩獵法ニ所謂狩獵ヲ爲シタルモノトス

第十條

○狩獵法第二十二條第三號ノ罪ハ銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲スコトニ因テ成立シ銃獵ヲ爲シタル場所カ銃獵禁止區域ニ該當スルコトノ認識アルコトヲ必要トセス

二	一三	四	二
一	三	四	一
一七〇九	三六四	六七六	一三九
	五二二		
	五二六		

二	四	三
一	四	二
一三九	三七八	六〇二

第十一條

○狩獵トハ狩獵法ニ定メタル銃器其ノ他ノ獵具ヲ以テ鳥獸捕獲ノ方法ヲ行フコトヲ謂フ

○狩獵ノ目的ヲ以テ公道ニ於テ銃彈ヲ發射スルトキハ其ノ目的タル鳥獸カ公道ニ在ルト否トヲ問ハス其ノ鳥獸ヲ捕獲シタルト否トニ關ラス狩獵法第十一條第三號ニ違背スルモノトス

○鳥獸捕獲ノ爲ニスル射擊ニシテ其ノ射程内ニ公道ヲ包容スルトキハ公道ニ於テ狩獵ヲ爲スモノニ該當シ狩獵法第十一條第三號ニ違反スルモノトス

第十六條

○狩獵法ニ所謂日出日没ハ事實上日光ノ明暗ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニ非スシテ太陽面ノ最上點カ地平線ニ見ユル時刻ヲ指示シ曆ニ所謂日ノ出入ニ一致ス

第二十一條

○狩獵トハ狩獵法ニ定メタル銃器其ノ他ノ獵具ヲ以テ鳥獸捕獲ノ方法ヲ行フコトヲ謂フ

二	二	二	二	二
一	一	一	一	一
三三九	三五八	四六九	三三九	三三九

○狩獵ノ目的ヲ以テ公道ニ於テ銃彈ヲ發射スルトキハ其ノ目的タル鳥獸カ公道ニ在ルト否トヲ問ハス其ノ鳥獸ヲ捕獲シタルト否トニ關ラス狩獵法第十一條第三號ニ違背スルモノトス

○狩獵法第二十一條第二項ハ犯罪供用物件ニシテ犯人ノ所持スル物ト雖犯人以外ノ所有者カ其ノ意思ニ因ラスシテ所持ヲ喪失シタルモノニ係ルトキハ之ヲ沒收セサルノ精神ナリ

○大正八年八月農商務省令第二十八號狩獵法施行規則施行當時ニ於テ狩獵免許ヲ受ケス箱罟ヲ使用シテ狩獵鳥獸ヲ捕獲スルモ狩獵法第三條第二十一條第一項第一號ニ依リ處罰スルコトヲ得サルモノトス

第二十二條

○狩獵法第二十二條第三號ノ罪ハ銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲スコトニ因テ成立シ銃獵ヲ爲シタル場所カ銃獵禁止區域ニ該當スルコトノ認識アルコトヲ必要トセス

○狩獵法ニ於テ捕獲ヲ禁シタル鼯鼠ヲ其ノ禁制ナキ他ノ動物ナリト錯覺シテ捕獲シタルトキハ即チ罪ヲ犯ス意ナキ行爲ト謂フヲ得レトモ方言もまハ法律ニ於テ捕獲ヲ禁スル鼯鼠ナルコトヲ知ラス之ヲ捕獲スルモ罪ト爲ラスト信シテ捕獲シタルトキハ法律ノ不知ニ該當スルモノニシ

二	二	二	二	二
一	一	一	一	一
一七〇九	四六六	一七三〇	三三九	三三九

テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スヲ得サルモノトス
 ○鳥獸ヲ捕獲スル目的ヲ以テ鳥獸ニ對シ裝彈シタル銃器ヲ擬シタル以上ハ銃彈ヲ發射シタルト否トヲ問ハス狩獵法ニ所謂狩獵ヲ爲シタルモノトス

狩獵法施行規則

第二條

○狩獵法ニ於テ捕獲ヲ禁シタル鼯鼠ヲ其ノ禁制ナキ他ノ動物ナリト錯覺シテ捕獲シタルトキハ即チ罪ヲ犯ス意ナキ行爲ト謂フヲ得レトモ方言もまハ法律ニ於テ捕獲ヲ禁スル鼯鼠ナルコトヲ知ラス之ヲ捕獲スルモ罪ト爲ラスト信シテ捕獲シタルトキハ法律ノ不知ニ該當スルモノニシテ罪ヲ犯ス意ナシト爲スヲ得サルモノトス
 ○鳥獸ヲ捕獲スル目的ヲ以テ鳥獸ニ對シ裝彈シタル銃器ヲ擬シタル以上ハ銃彈ヲ發射シタルト否トヲ問ハス狩獵法ニ所謂狩獵ヲ爲シタルモノトス

第四條

○大正八年八月農商務省令第二十八號狩獵法施行規則施行當時ニ於テ狩獵免訴ヲ受ケス箱罌ヲ使用シテ狩獵鳥獸ヲ捕獲スルモ狩獵法第三條第二十一條第一項第一號ニ依リ處罰スルコトヲ得サルモノトス

狩獵法ニ依ル禁獵區域指定ノ件

(大正九年十月五日山口縣告示第四百五十五號)

○狩獵法第二十二條第三號ノ罪ハ銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲スコトニ因テ成立シ銃獵ヲ爲シタル場所カ銃獵禁止區域ニ該當スルコトノ認識アルコトヲ必要トセス

酒造稅法

第一條ノ一

○清酒カ腐敗シ最早取引ノ目的タルヲ得サル状態ニ在ル場合ニ之ニ藥品ヲ混和シ其ノ腐敗状態ヲ除去スル行爲ハ清酒ノ保存ニ非スシテ腐敗清酒ヲ原料トシテ酒精含有飲料ヲ製出シタルモノニ外ナラス

諸法令 狩獵法ニ他ル禁獵區域指定ノ件 酒造稅法

一三	二	一四
二	一七〇九	四
二六		六七六

一五	一三	一五	一三
五	三	五	三
二三六	三六四	二三六	三六四

第一條ノ二

○清酒カ腐敗シ最早取引ノ目的タルヲ得サル状態ニ在ル場合ニ之ニ藥品ヲ混和シ其ノ腐敗状態ヲ除去スル行爲ハ清酒ノ保存ニ非スシテ腐敗清酒ヲ原料トシテ酒精含有飲料ヲ製出シタルモノニ外ナラス

一三
二六

○清酒及變味セル清酒ノ混和液ニ糖水ヲ混入シテ一種ノ飲料ヲ製造シタルトキハ之ヲ清酒ト稱シ又ハ酒汐ト稱シ取引ノ目的ニ供スルモ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノニ外ナラス

一三
八四五

第一條ノ六

○免許ヲ受ケスシテ酒精ニ燒酎及水ヲ混和シテ飲料ヲ製出スル行爲ハ酒精及酒精含有飲料税法第十五條ニ該當スルモノトス

一三
三三

第十二條

○清酒カ腐敗シ最早取引ノ目的タルヲ得サル状態ニ在ル場合ニ之ニ藥品ヲ混和シ其ノ腐敗状態ヲ除去スル行爲ハ清酒ノ保存ニ非スシテ腐敗清酒ヲ原料トシテ酒精含有飲料ヲ製出シタルモノニ外ナラス

一五
二六

酒精及酒精含有飲料税法

第二條

○酒精含有飲料ヲ製造スル免許ヲ受ケスシテ清酒四十八石餘ニ酒精分四十度ノ燒酎一石三斗五升柿澁七升醴餽粉七升ヲ混和シ含有酒精ノ容量二十四度未滿ノ飲料四十九石五斗五升九合ヲ製造スル場合ニ酒精含有飲料税法第五條ノ違反トナル物體ハ其ノ製造石數ノ全部ニシテ其ノ中ヨリ柿澁及醴餽粉ヲ除外スヘキモノニ非ス

一三
九九八

第五條

○酒精含有飲料ヲ製造スル免許ヲ受ケスシテ清酒四十八石餘ニ酒精分四十度ノ燒酎一石三斗五升柿澁七升醴餽粉七升ヲ混和シ含有酒精ノ容量二十四度未滿ノ飲料四十九石五斗五升九合ヲ製造スル場合ニ酒精含有飲料税法第五條ノ違反トナル物體ハ其ノ製造石數ノ全部ニシテ其ノ中ヨリ柿澁及醴餽粉ヲ除外スヘキモノニ非ス

一三
九九八

第十五條

○免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精含有飲料ニ他ノ物質ヲ混和シ因テ特種ノ酒精含有飲料ト爲スニ於テハ其ノ原料トシテ用ヒタル酒精又ハ酒精含有飲料カ納稅濟ナルト否ト又其ノ酒精容量ニ變化ヲ來シタルト否トヲ問ハス酒精及酒精含有飲料税法第十五條ニ所謂酒精含有飲料製造ノ

森林法

第七條

○神社境内ニ存立スル樹木ヲ盜伐シタル行爲ハ刑法ノ竊盜罪ニ該當シ森林竊盜罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

第八十四條

○森林竊盜ノ贓物ニシテ犯人ノ加工ニ因リ他種ノ物ニ變シタルモノハ森林法第八十四條第二號ニ所謂贓物ヲ原料トシテ製シタル物品ニ該當ス
○森林法第八十四條第四號所定ノモノト其ノ效力ヲ同シクシ若ハ其レ以上ノ效力ヲ有スル畜類器具ヲ贓物運搬ノ用ニ供スルニ非サレハ同號ニ該當セス

○甲者乙者ニ對シ森林ノ或種ノ樹木數本ヲ盜伐スルコトヲ教唆シ乙者教唆ニ應シ情ヲ知レル丙者ト共同シテ他種ノ樹木ヲ雜ヘ合計數十本ヲ盜伐シ且伐痕ヲ隱蔽シタルトキハ甲者ハ森林法第八十四條ノ罪ノ教唆トシテ罪責ニ任スヘキモノトス

一五	二	一五六
五	二	一五六
五二一	二	五八五
三	二	五八五
七四一	二	五八五

新聞紙法

第四條

○新聞紙法ニ所謂時事トハ現時ニ於ケル社會上ノ出來事ヲ稱スルモノニシテ其ノ公知ノ事實ナルト否トヲ區別スルコトナシ

○新聞紙ニ掲載セラレタル記事カ時事ニ關スル事項ナリヤ否ハ記事ノ全體ニ亘リ其ノ記述ノ目的トシタル事項ヲ標準トシテ之ヲ判別スヘキモノトス

○新聞紙法ニ所謂印刷人タルニハ新聞紙ノ印刷ヲ擔當スルヲ以テ足り自ラ印刷ノ機械的作業ヲ行フヲ要セス

第五條

○新聞紙法ニ所謂印刷人タルニハ新聞紙ノ印刷ヲ擔當スルヲ以テ足り自ラ印刷ノ機械的作業ヲ行フヲ要セス

第九條

○新聞紙ノ發行人編輯人ハ新聞紙ノ記事ニ付絕對的ニ責任ヲ負擔スヘキモノニシテ犯意ナキ場合ニ於テモ新聞紙法ノ制裁ヲ免ルルヲ得サルモ

一三	二	一五
二	二	一五
一四	二	一〇四
一五	二	一〇四
五	二	一〇四
五二一	二	一〇四

ノトス
○新聞紙ノ記事ニ署名シタル者ハ其ノ記事カ新聞紙ニ掲載セララルコトヲ知ル以上ハ其ノ記事ノ意義ヲ認識セスト雖新聞紙法ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

第十二條

○新聞紙ノ發行人カ他ノ共同經營者トノ共有ニ係ル國庫債券ヲ保證金ニ充テテ納付スルモ發行人單獨ノ所有ニ歸スルモノニ非サルヲ以テ發行人カ還付ヲ受ケテ擅ニ之ヲ費消シタルトキハ横領罪ヲ構成ス

○新聞紙ニ掲載セラレタル記事カ時事ニ關スル事項ナリヤ否ハ記事ノ全體ニ亘リ其ノ記述ノ目的トシタル事項ヲ標準トシテ之ヲ判別スヘキモノトス

第十九條

○新聞紙法第十九條ニ依リ檢事ノ爲ス掲載差止ハ新聞紙ノ發行人ニ對シテ之ヲ告知スヘキモノニシテ發行人カ其ノ告知ヲ受ケタル以上ハ差止ノ效力ハ直ニ發生シ延テ編輯人ニ及フヘキモノトス

○新聞紙法第十九條ノ違反罪ハ新聞紙ノ編輯人カ掲載禁止ノ事項ヲ現ニ發行セル新聞紙ニ掲載スルニ因テ成立スルモノトス

二	一三五四
二	一三五四
一四	一〇四
一三	七七
一三	四九四
二	四九四

○新聞紙法第十九條ニ所謂豫審中ノ被告事件トハ豫審ニ繫屬スル被告事件ノ義ニシテ事件ニ付未タ豫審處分ニ着手セサル以前ト雖既ニ豫審ニ繫屬スル以上ハ之ヲ豫審中ノ被告事件ト言フニ妨ケナキモノトス

第二十條

○新聞紙法第二十條ニ所謂官署公署ニ於テ公ニセサル文書トハ之カ掲載ニ關シ當該官公署ニ許否ノ權能ノ有無ヲ問ハス法令ヲ以テ公ニスルコトヲ禁止スル一切ノ文書ヲ汎稱スルモノトス

第二十一條

○新聞紙ノ記事ニシテ刑事被告人ニ罪ナキモノノ如ク叙述セルハ新聞紙法第二十一條ノ刑事被告人ヲ救護スル事項ニ該當ス

第三十條

○新聞紙法ニ所謂印刷人タルニハ新聞紙ノ印刷ヲ擔當スルヲ以テ足り自ラ印刷ノ機械的作業ヲ行フヲ要セス

第三十一條

○新聞紙法ニ所謂時事トハ現時ニ於ケル社會上ノ出來事ヲ稱スルモノニシテ其ノ公知ノ事實ナルト否トヲ區別スルコトナシ

○新聞紙ニ掲載セラレタル記事カ時事ニ關スル事項ナリヤ否ハ記事ノ全

一三	二四九四
一五	二六一
一三	六八三
一五	五五一
一三	一五

體ニ亘リ其ノ記述ノ目的トシタル事項ヲ標準トシテ之ヲ判別スヘキモノトス

第三十六條

○新聞紙法第十九條ノ違反罪ハ新聞紙ノ編輯人カ掲載禁止ノ事項ヲ現ニ發行セル新聞紙ニ掲載スルニ因テ成立スルモノトス

○新聞紙法第二十條ニ所謂官署公署ニ於テ公ニセサル文書トハ之カ掲載ニ關シ當該官公署ニ許否ノ權能ノ有無ヲ問ハス法令ヲ以テ公ニスルコトテ禁止スル一切ノ文書ヲ汎稱スルモノトス

第四十一條

○新聞紙ニ掲載シタル事項カ安寧秩序ヲ紊スヘキヤ否ハ主トシテ其ノ當時ニ於ケル社會觀念ヲ標準トシテ客觀的ニ之ヲ決スヘキモノトス

○國法ヲ無視シ國家ノ權力ヲ否定シ國民ノ道義心ヲ壞亂シ人ノ生命身體財產自由ニ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ威嚇又ハ煽動シ暴力其ノ他不法ノ手段ヲ用キ又ハ急激ニ社會ノ組織ヲ變更シ其ノ他一般ニ國家ノ生存發達ヲ阻害シ公共ノ平和ヲ攪亂スル虞アル掲載事項ハ安寧秩序ヲ亂スヘキモノトシテ新聞紙法第四十一條ノ罪ヲ構成ス

○單ニ現行制度ノ不備社會組織ノ缺陷ヲ指摘シテ攻撃スルニ止リ不法ノ

一四
一〇四

一三
四九四

一五
二六一

一一
二〇五

一一
二〇五

手段ニ因リ又ハ急激ニ之ヲ變更センコトヲ試ミルモノニ非サルトキハ其ノ掲載事項ハ現ニ社會狀態ノ安定ヲ破壞スル虞ナキ限り未タ以テ安寧秩序ヲ紊スモノト謂フヲ得ス

○新聞紙ノ記事ニシテ我國ノ無產階級ニ屬スル民衆ハ資本ヲ有シ生産機關ヲ有スル者ヲ敵トシ資本家ニ應援スル知識階級中産階級ヲ敵トシ階級戰爭ニ於テ無產階級ノ味方タルコトヲ明言セサルモノヲ敵トシ騷亂ヲ避ケス暴力ノ使用ヲ辭セス悉ニ平時ノ職業ヲ抛チ身命ヲ擲チ一舉ニ隣國ノ如ク無產階級ノ勝利ヲ致スヘキ行動ニ出ツヘキコトヲ懲慝セル趣旨ニ歸スルモノハ不法ノ手段ニ因リ社會ノ組織ヲ急激ニ變更セントスルモノニ外ナラスシテ新聞紙法第四十一條ノ安寧秩序ヲ紊ス事項ニ該當スルモノトス

○帝國議會ヲシテ民衆ノ要求ヲ容レシムル爲代議士ニ對シ暴行ヲ加ヘ其ノ自由意思ヲ牽制スヘキコトヲ以テ公衆ヲ煽動スルヲ趣旨トスル新聞紙ノ記事ハ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊ス事項ニ該當スルモノトス

○現代社會制度ノ存續スル限り吾人カ叛逆心ヲ有シ暴力ヲ以テ現在ノ社會制度ヲ打破セント欲スルハ當然ナリト論シ勞働者カ資本家ニ對抗シ

一一
二〇五

一一
一七三

一一
二三八

テ同盟罷工ヲ爲シ腕力ニ訴フルコトヲ是認シ之ヲ懲憑シタル記事ハ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ該當ス

○著作物ノ内容カ風俗ヲ害スルモノタルト否トヲ問ハス之ニ關スル廣告文自體風俗ヲ害スルモノナルトキハ之ヲ新聞紙ニ掲載發行スル所爲ハ新聞紙法第四十一條ニ該當ス

○新聞紙ニ掲クル小説ノ記事カ革命思想ヲ賞讚シ之ヲ宣傳スルノ趣旨ニ出テサルモ革命的言論ヲ叙述シ國民ノ思想上ニ刺激ヲ與ヘ之ヲ惡化シ社會狀態ノ安定ヲ破壞スルノ虞アルトキハ其ノ記事ハ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スモノニ該當スルモノトス

第四十二條

○新聞紙ノ發行人編輯人ハ新聞紙ノ記事ニ付絶對的ニ責任ヲ負擔スヘキモノニシテ犯意ナキ場合ニ於テモ新聞紙法ノ制裁ヲ免ルルヲ得サルモノトス

○新聞紙ノ記事ニ署名シタル者ハ其ノ記事カ新聞紙ニ掲載セラルルコトヲ知ル以上ハ其ノ記事ノ意義ヲ認識セスト雖新聞紙法ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

○新聞紙法第四十二條ニ所謂朝憲ヲ紊亂セントスル事項トハ國家組織ノ

二三	三	八六
三	三五〇	
三	八八六	
二	一三五四	
二	三五四	
二	三五四	

大綱ヲ破壞セントスル記事ヲ指稱シ具體的ニ不法不合理ナル手段方法ノ舉示アルト否トハ之ヲ問フヲ要セス

第四十五條

○新聞紙法第四十五條ニ所謂私行トハ人ノ私生活關係ニ於ケル行動ヲ汎稱シ官吏公吏其ノ他ノ公務員又ハ公共團體其ノ他公ノ施設ニ關スル職員若ハ委員トシテノ行動ノ如キモノニ對スルモノニシテ辯護士カ株主トシテ一私設會社ノ事ニ關係スルカ如キハ其ノ辯護士個人トシテノ行爲ナレハ假令公衆ノ利害ニ影響ヲ及ホスヘキ場合アリト雖猶私行タルコトヲ失ハサルモノトス

○辯護士某カ或損害賠償事件ニ付原告ノ訴訟代理人タルコトヲ引受ケナカラ竊ニ被告側ト交渉シテ多大ノ利益ヲ受ケタル結果トシテ原告ノ訴訟代理人タルコトヲ謝絶シタリトノ新聞紙ノ掲載事項ハ新聞紙法第四十五條ノ適用ニ於テハ私行ニ涉ルモノニ該當スルモノトス

○新聞紙ノ記事ニ依ル名譽毀損罪ハ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事項ヲ新聞紙ニ掲載頒布スルニ因リ或立スルヲ常トシ其ノ内容ノ虛構ニシテ且虛構ノ證明セラルルコトヲ要スルモノニ非ス

○醫師ノ業務上患者ヲ診察治療スル行爲ハ新聞紙法第四十五條ニ所謂私

二三	三	六〇
三	二九七六	
三	二〇三七	
三	一五九	

行ニ屬スルモノトス

○新聞紙法第四十五條ノ規定ハ事實ヲ摘示シテ人ノ名譽ヲ毀損シタル事案ニ於テノミ其ノ適用アルモノニシテ事實ノ摘示ヲ必要トセサル侮辱罪ニ適用ナキモノトス

神佛道教會所規則

(大正十二年文部省令)

第二條

○佛敎教會支部設置許可申請ヲ町村役場ヲ經由シテ府縣知事ニ提出スル場合ニ於テ村長カ申請者ノ前科ノ有無ニ付副申ヲ爲スハ其ノ職務ニ屬シ之ニ關スル賄賂ノ收受ハ收賄罪ヲ構成ス

第十三條

○佛敎教會支部設置許可申請ヲ町村役場ヲ經由シテ府縣知事ニ提出スル場合ニ於テ村長カ申請者ノ前科ノ有無ニ付副申ヲ爲スハ其ノ職務ニ屬シ之ニ關スル賄賂ノ收受ハ收賄罪ヲ構成ス

神佛道教會所取扱手續

一三	三五	一五
三五	三五	一五
五八三	三〇三	一六二

(大正十二年八月二十八日有馬郡長内訓第一號)

第一條

○佛敎教會支部設置許可申請ヲ町村役場ヲ經由シテ府縣知事ニ提出スル場合ニ於テ村長カ申請者ノ前科ノ有無ニ付副申ヲ爲スハ其ノ職務ニ屬シ之ニ關スル賄賂ノ收受ハ收賄罪ヲ構成ス

鍼術灸術營業取締規則

第七條

○鍼術ニ於テ舊時鍼ヲ用ヒ癡血ヲ取去ルノ慣行アリタリトノコトハ現行法令ノ明文ヲ以テスル瀉血禁止規定ノ適用ヲ免ルルノ理由ト爲ラス

第十二條

○鍼術ニ於テ舊時鍼ヲ用ヒ癡血ヲ取去ルノ慣行アリタリトノコトハ現行法令ノ明文ヲ以テスル瀉血禁止規定ノ適用ヲ免ルルノ理由ト爲ラス

商 法

一五	二	二
五	一	一
一六二	一五三	一五三

第十二條

○取締役カ辭任後行使ノ目的ヲ以テ擅ニ取締役ノ署名ヲ冒用シテ其ノ會社振出名義ノ約束手形ヲ作成シタルトキハ未タ辭任ノ登記無カリシトスルモ有價證券偽造罪ヲ構成ス

第十九條

○商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スノ意思ナキ者カ他人ノ既ニ使用セル商號ノ登記ナキニ乘シ之ヲ害スルノ目的ヲ以テ同一商號ヲ登記シ名ヲ權利ノ實行ニ假託シ他人ヲ恐喝シ不正ニ金員ヲ領得シタル行爲ハ恐喝罪ヲ構成ス

第二十條

○商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スノ意思ナキ者カ他人ノ既ニ使用セル商號ノ登記ナキニ乘シ之ヲ害スルノ目的ヲ以テ同一商號ヲ登記シ名ヲ權利ノ實行ニ假託シ他人ヲ恐喝シ不正ニ金員ヲ領得シタル行爲ハ恐喝罪ヲ構成ス

第三十條

○支配人カ其ノ權限ノ範圍内ニ屬スル事項ニ關シ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ其ノ代理名義又ハ主人ノ商號ヲ使用シテ手形其ノ他

ノ文書ヲ作成スル行爲ハ有價證券偽造又ハ文書偽造ノ罪ヲ構成スルモノニ非ス

第三十條ノ二

○支配人カ其ノ權限ノ範圍内ニ屬スル事項ニ關シ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ其ノ代理名義又ハ主人ノ商號ヲ使用シテ手形其ノ他ノ文書ヲ作成スル行爲ハ有價證券偽造又ハ文書偽造ノ罪ヲ構成スルモノニ非ス

第三十三條

○株式會社ノ支配人以外ノ使用人カ取締役ヨリ會社業務ノ一部ヲ擔任スルコトヲ包括的ニ委託セラレタル後更ニ取締役ヨリ其ノ權限ニ制限ヲ加ヘラレタル場合ニ於テ使用人カ其ノ制限ニ背キ取締役名義ヲ以テ手形ノ裏書又ハ引受ノ記載ヲ爲ストキハ刑法第六十二條第二項ノ犯罪ヲ構成ス

第三十四條

○株式會社ノ支配人以外ノ使用人カ取締役ヨリ會社業務ノ一部ヲ擔任スルコトヲ包括的ニ委託セラレタル後更ニ取締役ヨリ其ノ權限ニ制限ヲ加ヘラレタル場合ニ於テ使用人カ其ノ制限ニ背キ取締役名義ヲ以テ手

一五	三五	三五
五	三五	三五
五六	三五	三五

二	二	二
一	二	二
五五八	二	二
一三	三	四一〇

形ノ裏書又ハ引受ノ記載ヲ爲ストキハ刑法第六十二條第二項ノ犯罪ヲ構成ス

第四十二條

○新聞紙ノ發行ヲ目的トシテ設立シタル會社ノ事業ハ常ニ營利事業ナリトス

第四百十四條

○既設ノ合名會社ノ一切ノ財産ヲ買收スル株式會社ニ對シテ有效ニ金錢債權ヲ有スル債權者カ一面ニ於テ株式引受人トシテ第一回ノ拂込義務ヲ負擔スル場合ニ於テハ會社ノ承諾ノ下ニ自己ノ負擔スル拂込ノ債務ト會社ニ對スル債權トニ付對當額ニ於テ有效ニ相殺ヲ爲シ得ヘク斯ル有效ノ相殺行ハレタル場合ニ在リテハ法律上之ヲ現實ニ第一回ノ拂込アリタルト同視スヘキモノトス

第五百十一條

○株式會社タル銀行ノ支配人カ金錢債務ノ擔保トシテ自己所有ノ其ノ銀行發行ノ株券ヲ銀行ニ交附シタル後支配人トシテ保管中擅ニ之ヲ引出シテ處分シタル場合ニ於テ若シ其ノ株券ニ質權ヲ設定シタルモノナルトキハ質權ノ設定ハ無効ニシテ擅ニ之ヲ引出シタル支配人ノ行爲ハ業

務横領罪ヲモ背任罪ヲモ構成セサルモノトス

第六十四條

○明治四十四年商法改正前ニ於テモ取締役カ辭任ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ效力ヲ發生シ株主總會ノ決議ヲ要セス

○取締役ハ辭任後ト雖事務ノ引繼ヲ了セサル間其ノ事務ヲ處理スヘキ任務ヲ有スルモノトス

○取締役カ辭任後行使ノ目的ヲ以テ擅ニ取締役ノ署名ヲ冒用シテ其ノ會社振出名義ノ約束手形ヲ作成シタルトキハ未タ辭任ノ登記無カリシトスルモ有價證券偽造罪ヲ構成ス

第七十六條

○株式會社タル銀行ノ取締役カ任務ニ背キ放漫ナル貸出ヲ爲シ會社ニ財産上ノ損害ヲ加フルトキハ監査役ノ承認ヲ經タルトキト雖背任罪ヲ構成スルモノトス

○株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ得ス自己ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ會社ヨリ金錢ヲ借出シタルトキハ其ノ借出ノ時ニ於テ背任罪成立スルモノニシテ事後監査役ノ承認アルモ其ノ罪責ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス

一三	一五	一三	一三	一三	一三
二	五	三	三	三	三
二七〇	三	八五二	八五二	八五二	八五二
		五	五	五	五
		五六	五六	五六	五六
		九	九	九	九
		四三	四三	四三	四三

第七十七條

○株式會社ノ取締役カ社員ヲシテ作成セシメタル貸借對照表ヲ調査セス爲ニ其ノ記載ニ過誤アルコトヲ覺知セス之ニ基キテ不當ノ利益配當ヲ爲シ會社ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ商法第七十七條ニ從ヒ取締役ノ任務ヲ怠リタルモノトシテ會社ニ對シ賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

第九十條

○株式會社ノ取締役カ社員ヲシテ作成セシメタル貸借對照表ヲ調査セス爲ニ其ノ記載ニ過誤アルコトヲ覺知セス之ニ基キテ不當ノ利益配當ヲ爲シ會社ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ商法第七十七條ニ從ヒ取締役ノ任務ヲ怠リタルモノトシテ會社ニ對シ賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

第九十二條

○株式會社ノ取締役カ社員ヲシテ作成セシメタル貸借對照表ヲ調査セス爲ニ其ノ記載ニ過誤アルコトヲ覺知セス之ニ基キテ不當ノ利益配當ヲ爲シ會社ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ商法第七十七條ニ從ヒ取締役ノ任務ヲ怠リタルモノトシテ會社ニ對シ賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

サルモノトス

第九十五條

○株式會社ノ取締役カ現實ノ利益以外ニ假裝ノ利益金額ヲ計上シ其ノ幾分ヲ利益トシテ配當スル行爲ハ商法第九十五條第一項ニ違反シ同法第二百六十一條第一項第三號ノ犯罪ヲ構成ス

第二百六十一條

○株式會社ノ取締役カ現實ノ利益以外ニ假裝ノ利益金額ヲ計上シ其ノ幾分ヲ利益トシテ配當スル行爲ハ商法第九十五條第一項ニ違反シ同法第二百六十一條第一項第三號ノ犯罪ヲ構成ス

○株式會社ノ取締役カ法律ノ認容セサル場合ニ會社ノ計算ニ於テ其ノ株式ヲ取得スル以上ハ名義ノ如何ヲ問ハス又其ノ目的カ會社ノ利益ヲ圖ルニ在ルト否トニ拘ラス商法第二百六十一條第一項第二號ニ於ケル株式ノ不正取得ニ該當スルモノトス

○商法第二百六十一條第一項第一號ヲ適用スヘキ場合ニ於テモ必シモ刑法第五十七條ノ罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

○商法第二百六十一條第一項第一號ニ所謂裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキトアルハ同條規定ノ事項ニ付人ヲ欺罔スルニ足ルヘキ方法ニ依リ

トキトアルハ同條規定ノ事項ニ付人ヲ欺罔スルニ足ルヘキ方法ニ依リ

三	二	一	二	二	二
七	七	七	六	六	六
七	七	七	六	六	六

不實ノ申告又ハ報告ヲ爲シ裁判所又ハ總會ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキ所爲アル場合ヲ汎稱シ之カ爲ニ裁判所又ハ總會カ錯誤ニ陥リタルコトヲ要セサルモノトス

○株式会社ノ設立ニ關シ裁判所ニ對シテ資本ノ拂込額等ニ付虚偽ノ申立ヲ爲シ商業登記簿ニ不實ノ記載ヲ爲サシメテ行使シタル行爲ハ刑法第百五十七條第一項第百五十八條第一項ニ依リ處罰スヘキモノニシテ商法第二百六十一條第一項第一號ニ依リ處罰スヘキモノニ非ス

第二百六十四條

○新聞紙ノ發行ヲ目的トシテ設立シタル會社ノ事業ハ常ニ營利事業ナリトス

第二百六十五條

○旅店カ本業ノ外旅客ノ爲ニ其ノ金品ヲ保管シ郵便物ノ發送又ハ受領ヲ爲シ車馬ヲ註文シ手荷物ヲ運搬シ乗車券ヲ購買スルカ如キハ其ノ營業ニ牽連スル附屬的業務トシテ旅店營業ノ範圍ニ屬スヘキモノトス

第二百六十三條

○問屋業者カ委託者ノ爲ニ物品ヲ販賣シテ得タル代金ハ當然委託者ニ歸屬ス

一三	一三	一五	一三
二	二	五	三
八九五	六四三	三	三八三

○自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ株式現物ノ賣買ヲ爲スヲ業トスル者カ株式買付ノ爲委託者ヨリ受取リタル金銭ヲ擅ニ自己ノ用途ニ費消シタルトキハ業務上横領罪ヲ構成ス

第三百十四條

○問屋業者カ委託者ノ爲ニ物品ヲ販賣シテ得タル代金ハ當然委託者ニ歸屬ス

○自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ株式現物ノ賣買ヲ爲スヲ業トスル者カ株式買付ノ爲委託者ヨリ受取リタル金銭ヲ擅ニ自己ノ用途ニ費消シタルトキハ業務上横領罪ヲ構成ス

第三百十三條

○有價證券タル貨物引換證ニ於ケル虚偽記入罪ハ商法第三百三十三條所定ノ事項ニ付虚偽ノ記入ヲ爲シタル場合ハ勿論右法定事項以外ノ事項ト雖貨物引換證ノ本質ニ從ヒ有效ニ當事者ヲ拘束スヘキ效力ヲ有スル性質ノ事項カ虚偽ノ記入ナルニ於テハ其ノ罪ヲ構成スヘキモノトス

第三百二十九條

○倉庫業者カ自己ノ名義ヲ以テ預證券ヲ作成スル場合ニ現實物品ノ寄託ナキニ拘ラス其ノ寄託ヲ受ケタル旨ノ虚偽ノ記入ヲ爲ス行爲ハ刑法第

一五	一三	一五	一五
五	二	五	五
四三	八九五	五六七	五六七

百六十二條第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス

第四百五十五條

○裏書讓渡ヲ禁止シタル約束手形ハ讓渡ニ因リ轉帳シタル場合ト雖私文書毀棄罪ノ目的タルコトヲ得

第五百二十五條

○乙者甲者ニ對シ金額六十圓ノ約束手形ニ付裏書人タルコトヲ請ヒ甲者ヲシテ手形金額其ノ他ノ要件ノ記載ナキ手形用紙ニ裏書人トシテ署名捺印セシメタル上行使ノ目的ヲ以テ其ノ用紙金額欄内ニ千圓ト記入シ其ノ他ノ要件ヲモ充實シテ自己ノ振出ニ係ル約束手形ノ形式ヲ具備セシメ以テ甲者カ真正ニ千圓ノ約束手形ノ裏書ヲ爲シタルカ如キ外觀ヲ呈セシムルハ刑法第二百六十二條第二項ニ所謂有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス

第五百二十九條

○裏書讓渡ヲ禁止シタル約束手形ハ讓渡ニ因リ轉帳シタル場合ト雖私文書毀棄罪ノ目的タルコトヲ得

第六百五十四條

○海上保險ニ於テ保險者ハ保險期間中ニ生シタル保險事故ニ對シ損害填

補ノ責ニ任スヘキモノナレハ保險事故カ保險期間中ニ生シ其ノ結果損害ヲ來シタルトキハ其ノ損害發生ノ時期保險期間經過後ニ係ルモ保險者ハ其ノ損害ヲ填補スル責ニ任スヘキモノトス

商 標 法

第三十四條

○他人ノ登録商標ヲ付シアリタル容器ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用スルモ該商標ヲ認識シ得ヘカラサル程度ニ於テ抹消シ又ハ他物ヲ以テ之ヲ完全ニ掩蔽シ其ノ影跡ヲ表現セシメサルトキハ商標法違反トナラス
○商標法第三十四條第一號前段所定ノ犯罪事實ヲ認定スルニハ商標ヲ使用セントスル目的物ハ他人カ登録ヲ受ケタル商標ヲ以テ其ノ製造加工等ニ係ルコトヲ表彰スル特定ノ商品ト同一又ハ類似ノ識別ニ關シ種類構造若ハ用途等ヲ具體的ニ説明スルヲ要セス

少 年 法

一三	一三	一三
三	二	三
二七三	二八四二	一

第一條

○少年法第八條第一項ノ規定ニ依リ處分スヘキ少年タルニハ犯時十八歳ニ滿タサルノミナラス處分ノ時尙十八歳ニ滿タサルコトヲ要ス

一三 三八四

第八條

○少年法第八條第一項ノ規定ニ依リ處分スヘキ少年タルニハ犯時十八歳ニ滿タサルノミナラス處分ノ時尙十八歳ニ滿タサルコトヲ要ス

一三 三八四

○第二審判決當時十八歳未滿ナルニ因リ少年法第八條ヲ適用シ不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者カ上告ヲ爲シタル後十八歳以上ニ達シタル事實アリタル場合ニ之ヲ法令ノ違反トシテ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

一四 三九

第十四條

○少年法第八條第一項ノ規定ニ依リ處分スヘキ少年タルニハ犯時十八歳ニ滿タサルノミナラス處分ノ時尙十八歳ニ滿タサルコトヲ要ス

一三 三八四

○少年法第十四條ニ所謂人ノ資格ニ關スル法令ニハ刑ノ執行猶豫又ハ累犯加重ニ關スル刑法ノ規定ノ如キハ之ヲ包含セス

一五 二八一

第六十四條

○少年法第六十四條ハ裁判所ニ對スル一ノ訓示規定ニシテ其ノ調査方法ニハ別段ノ制限ナキヲ以テ苟モ調査ノ目的ヲ達スルニ適當ナル限り其

ノ方法ニ依ルヲ妨ケス

一三 三八五

第六十五條

○少年法第六十五條ノ規定ハ公判期日後ニ於テ同法第六十四條ノ調査ヲ爲スコトヲ許ササル趣旨ヲ包含スルモノニ非ス

一三 三八五

醬油稅則

第五條

○醬油稅則ニ所謂査定ト檢定トハ共ニ造石數ノ計量ヲ爲ス點ニ於テ同一ナルモ二者其ノ目的ヲ異ニシ前者ハ課稅ノ爲ニシ後者ハ取締ノ必要上未タ課稅ノ目的ト爲ラサル醬油又ハ溜ノ造石數ヲ計量スル趣旨ナリ

二 一八〇六

○原料用ノ溜ハ査定ヲ爲サスシテ檢定ヲ爲スニ止ムルコトヲ得ヘキモ之カ使途ヲ變シ他ニ賣渡サントスルトキハ造石數ノ査定ヲ受クルヲ要ス

二 一八〇六

第六條

○醬油稅則ニ所謂査定ト檢定トハ共ニ造石數ノ計量ヲ爲ス點ニ於テ同一ナルモ二者其ノ目的ヲ異ニシ前者ハ課稅ノ爲ニシ後者ハ取締ノ必要上未タ課稅ノ目的ト爲ラサル醬油又ハ溜ノ造石數ヲ計量スル趣旨ナリ

二 一八〇六

○原料用ノ溜ハ査定ヲ爲サスシテ檢定ヲ爲スニ止ムルコトヲ得ヘキモ之カ使途ヲ變シ他ニ賣渡サントスルトキハ造石數ノ査定ヲ受クルヲ要ス

第十條

○醬油稅則ニ所謂査定ト檢定トハ共ニ造石數ノ計量ヲ爲ス點ニ於テ同一ナルモ二者其ノ目的ヲ異ニシ前者ハ課稅ノ爲ニシ後者ハ取締ノ必要上未タ課稅ノ目的ト爲ラサル醬油又ハ溜ノ造石數ヲ計量スル趣旨ナリ

○原料用ノ溜ハ査定ヲ爲サスシテ檢定ヲ爲スニ止ムルコトヲ得ヘキモ之カ使途ヲ變シ他ニ賣渡サントスルトキハ造石數ノ査定ヲ受クルヲ要ス

第二十條

○醬油稅則ニ所謂査定ト檢定トハ共ニ造石數ノ計量ヲ爲ス點ニ於テ同一ナルモ二者其ノ目的ヲ異ニシ前者ハ課稅ノ爲ニシ後者ハ取締ノ必要上未タ課稅ノ目的ト爲ラサル醬油又ハ溜ノ造石數ヲ計量スル趣旨ナリ

○原料用ノ溜ハ査定ヲ爲サスシテ檢定ヲ爲スニ止ムルコトヲ得ヘキモ之カ使途ヲ變シ他ニ賣渡サントスルトキハ造石數ノ査定ヲ受クルヲ要ス

醬油稅則施行規則

二	一	一八〇六
二	一	一八〇六
二	一	一八〇六
二	一	一八〇六

第十條

○醬油稅則ニ所謂査定ト檢定トハ共ニ造石數ノ計量ヲ爲ス點ニ於テ同一ナルモ二者其ノ目的ヲ異ニシ前者ハ課稅ノ爲ニシ後者ハ取締ノ必要上未タ課稅ノ目的ト爲ラサル醬油又ハ溜ノ造石數ヲ計量スル趣旨ナリ

○原料用ノ溜ハ査定ヲナサスシテ檢定ヲナスニ止ムルコトヲ得ヘキモ之カ使途ヲ變シ他ニ賣渡サントスルトキハ造石數ノ査定ヲ受クルヲ要ス

第十一條

○醬油稅則ニ所謂査定ト檢定トハ共ニ造石數ノ計量ヲ爲ス點ニ於テ同一ナルモ二者其ノ目的ヲ異ニシ前者ハ課稅ノ爲ニシ後者ハ取締ノ必要上未タ課稅ノ目的トナラサル醬油又ハ溜ノ造石數ヲ計量スル趣旨ナリ

○原料用ノ溜ハ査定ヲナサスシテ檢定ヲ爲スニ止ムルコトヲ得ヘキモ之カ使途ヲ變シ他ニ賣渡サントスルトキハ造石數ノ査定ヲ受クルヲ要ス

收入印紙賣捌規則

(明治四十二年遞信省令第十一號)

第二條

諸法令 醬油稅則施行規則 收入印紙賣捌規則

二	一	一八〇六
二	一	一八〇六
二	一	一八〇六
二	一	一八〇六

○三等郵便局又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ收入印紙賣捌規則第二條及第三條ニ依リテ郵便官署ヨリ收入印紙ノ賣渡ヲ受クルニ當リ成規ノ割引ヲ受ケ得ルハ正當ノ手續ニ依リ賣渡ノ請求ヲ爲ス場合ニ限リ三等郵便局長若ハ收入印紙賣捌人カ不正ノ手段ヲ用キ收入印紙ノ拂下ヲ受ケ因テ國庫ニ損害ヲ被ラシメタル場合ハ右規定ノ利益ヲ受クルヲ得サルモノトス

第三條

○三等郵便局又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ收入印紙賣捌規則第二條及第三條ニ依リテ郵便官署ヨリ收入印紙ノ賣渡ヲ受クルニ當リ成規ノ割引ヲ受ケ得ルハ正當ノ手續ニ依リ賣渡ノ請求ヲ爲ス場合ニ限リ三等郵便局長若ハ收入印紙賣捌人カ不正ノ手段ヲ用キ收入印紙ノ拂下ヲ受ケ因テ國庫ニ損害ヲ被ラシメタル場合ハ右規定ノ利益ヲ受クルヲ得サルモノトス

衆議院議員選舉法

第八十七條

○選舉ニ關シ委託ヲ受ケテ運動ヲ爲ス者ハ勿論自發ノ意思ヲ以テ運動ヲ爲ス者モ亦選舉運動者ナリ

○選舉ニ關シ利害關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導スルノ罪ノ成立ニハ利害關係カ現在ノモノタルト將來ノモノタルトヲ問ハス又利害關係ノ發生カ未必ノモノタルト確定ノモノタルトヲ區別スルコトナシ

○議員候補者又ハ選舉運動者カ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シテ爲シタル響應カ投票其ノ他選舉ニ關スル運動ノ報酬タルトキハ衆議院議員選舉法第八十七條第二號又ハ第七號ノ罪ヲ構成シ響應カ單ニ社交上ノ好意ヲ表スルニ過キサルトキハ同法條ノ罪ヲ構成セス響應カ其ノ何レニ屬スルヤハ響應ノ性質及候補者又ハ運動者ノ意思如何ニ依リ定マルモノトス

○議員候補者又ハ選舉運動員カ一般的利害問題ニ關シ公然其ノ政見ヲ發表シ之ニ賛同スル選舉人ノ投票ヲ求ムルカ如キハ固ヨリ適法ナルモ自己ノ爲ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ是等ノ者カ該問題ニ付選舉人若ハ選舉運動者ノ有スル特種ノ利害關係ヲ利用シ之ヲ誘導スヘキ言論ヲ爲スカ如キハ之ヲ以テ適法ナル政見發表ト謂フヘカラス

○市町村ニ利害ノ關係アル事業ニシテ既定計劃ニ屬スルモノト雖將來ニ

二 一八九

二 一八九

二 二八七

二 一六九

三 二四八

三 二四八

於テ之カ變更廢止ヲ抑止シ又ハ其ノ遂行ヲ促進シ得ヘキ餘地アルモノニ關シ縣會議員候補者又ハ選舉運動者カ其ノ事業ノ進行ニ付盡力スヘキ旨ヲ以テ市町村内ノ選舉人又ハ選舉運動者ヲ誘導スル行爲ハ府縣制第四十條ノ規定ニ依リ準用セララルル衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號及第五號ニ所謂市町村等ニ對スル利害ノ關係ヲ利用シテ誘導シタルモノニ該當ス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號ニ所謂利害ノ關係トハ選舉人若ハ選舉運動者又ハ此等ノ者ノ關係アル社寺學校市町村等ニ對シ特殊ノ影響ヲ及ホスヘキ利害關係ノ謂ニシテ其ノ關係カ私法的ノモノタルト公法的ノモノタルトヲ問ハス又社寺學校市町村等ニ對スルノミナラス延テ一般的ニ影響ヲ及ホスト否トヲ論スルヲ要セス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第五號ノ誘導罪ハ新聞紙ノ記事ニ依リテ之ヲ行フ場合ニ於テハ當該新聞紙ヲ選舉人ニ到達セシムルニ依リテ成立シ選舉人カ現ニ之ヲ讀ミ且諒解シタルコトヲ要スルモノニ非ス

○縣會議員ノ選舉ニ關シ議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人數千名ニ對シ其ノ特殊ノ利害關係ヲ有スル問題ヲ利用シ之ヲ誘導シテ自己

二 一六九二

一三 四〇

一三 九二

ニ投票セシムルコトヲ趣旨トスル文書ヲ郵送シタルトキハ之ニ依リ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號刑法第五十五條ノ罪ハ完成スルモノニシテ以後其ノ文書ノ記載事項ヲ取消スコトヲ通知シタリトスルモ其ノ罪ノ成立ヲ阻却スルコトナキモノトス

○衆議院議員選舉法第八十七條ノ選舉運動者トハ現ニ選舉運動ニ從事スル者ニ限ラス選舉運動者タルコトヲ承諾シタル者ヲモ包含スルモノトス

○議員候補者タルニハ立候補ノ意思ヲ外部ニ發表スルヲ以テ足り必シモ選舉人ニ對シ言論文章等ヲ以テ之ヲ公表スルコトヲ要セス又他人ヨリ候補者トシテ推薦セラレタル者ニ限ラス有權者ノ訪問ヲ爲シ自己ニ投票センコトヲ求ムル者モ亦候補者ト謂ハサルヘカラス

○縣會議員候補者カ自己ノ選舉區内ニ存スル道路ニ付特殊ノ利害關係ヲ有スル選舉人ニ對シ投票ヲ得ル目的ヲ以テ當選ノ曉ニハ其ノ道路ノ修築速成ニ努力スヘキ旨ノ演說ヲ爲シタルトキハ其ノ道路ノ修築カ縣政ノ一部ニ屬スル場合ト雖衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

○選舉ニ際シ特定ノ議員候補者ノ爲ニスルモノハ論無ク將來特定セララル

一三 二九九

一三 三三〇

一三 三三〇

一三 三七二

へキ候補者ノ爲ニ投票セシムル目的ヲ以テ運動ニ從事スル者ハ皆選舉運動者ト認ムヘキモノトス

○選舉運動者カ選舉ニ際シ選舉人ニ對シ其ノ特殊ノ利害關係ヲ有スル或事業ヲ完成スルニハ某政黨ニ入黨シ其ノ政黨所屬議員候補者ヲ選出スルヲ得策トスル旨ヲ告ケテ之ヲ誘導シテ後ニ某政黨所屬議員候補者ノ定マリタルトキハ選舉運動者ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第八十七條第五號ニ該當スルモノトス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ニ規定セル財産上ノ利益供與ノ中ニハ選舉運動者カ議員候補者ノ爲ニ投票ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ金錢ヲ貸與スル行爲ヲ包含ス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項各號ハ何レモ選舉ノ公正ヲ害スル同一性質ノ犯罪行爲ニシテ單ニ其ノ態様ヲ異ニスルニ過キササルヲ以テ連續シテ其ノ二個以上ノ號ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ刑法第五十五條ニ依リ一個ノ同條項ノ罪トシテ處斷スヘキモノトス

○選舉運動者カ候補者ノ爲投票ヲ得セシムル目的ニテ仲介者ヲ經テ一有權者ニ付拾圓ツツヲ供與スヘキ旨ヲ約束シタルトキハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第五號第一號ノ犯罪ハ成立スヘク其ノ後ニ至リ該

一三 三三九〇

一三 三三九〇

一三 三四八七

一三 三五五九

約束ヲ取消スモ之カ爲ニ犯罪ノ成立ヲ阻却セス

○選舉ニ關シ選舉人又ハ選舉運動者ニ財物ヲ供與スヘキ旨ノ負擔附ニテ財物ノ供與ヲ受ケタル者カ其ノ負擔ノ趣旨ニ從テ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シタル場合ニ於テ後ノ供與ヲ受ケタル者ヨリ沒收又ハ追徴ヲ爲スヘキトキハ其ノ部分ニ付テハ前ノ供與ヲ受ケタル者ヨリ追徴スヘキモノニ非ス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第七號ハ過去ニ於ケル行爲又ハ不行爲ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テシタル場合ニ關スル規定ナリ

○選舉運動者カ選舉人ニ對シ議員候補者ノ爲投票ヲ爲サシムル目的ヲ以テ立候補宣言演說會ニ來聽セル選舉人ノ爲ニ宿泊料ヲ代辨シタル行爲ハ衆議院議員選舉法第八十七條第五號ノ利益ノ供與ニ該當ス

○數人ノ選舉運動者カ共謀シテ選舉ニ關シ他ノ選舉運動者ニ金錢ノ供與ヲ爲シ其ノ後之ヲ受ケタル者カ供與者ノ一人ニ之ヲ返還シタル場合ニ於テハ返還ヲ受ケタル供與者ヨリ之ヲ沒收シ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ者ヨリ之カ價額ヲ追徴スヘキモノトス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第五號ニ規定スル選舉運動者ノ誘導ノ罪ハ投票ヲ得ル目的ヲ以テ其ノ誘導ヲ爲スニ因リ成立シ苟モ投票

一三 三六〇六

一三 三六二六

一三 三六三五

一三 三六四一

一三 三六八六

ヲ得ル目的ニ出ツル以上ハ選舉有權者ヲシテ先ツ或政黨ニ加入セシメ然ル後政黨所屬ノ議員候補者ニ投票セシムルト若ハ之ヲシテ直ニ其ノ議員候補者ニ投票セシムルトハ犯罪ノ成否ニ消長ナキモノトス

○選舉運動者カ選舉ニ關シ其ノ運動實費及報酬トシテ包括的ニ一定ノ金額ノ供與ヲ受ケタル場合ニ於テ兩者ノ割合ノ定ナカリシトキハ受領金額全部ヲ沒收又ハ追徴スヘキモノトス

○縣會議員ノ選舉ニ際シ選舉人ニ對シ其ノ屬スル村ノ利害關係ニ影響スル築港ニ付國庫ノ補助ヲ受クルニハ多數黨タル政友會ヲシテ盡力セシムル必要アルヲ以テ其ノ歡心ヲ買フカ爲政友會ノ議員候補者ニ投票スヘシトノ勸誘ヲ爲シタルハ利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルモノトス

○衆議院議員候補者カ投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ主義政見ヲ發表スル場合ニ其ノ事項カ之ヲ客觀的ニ觀察シ主トシテ國家ノ政策ニ關スルモノナルトキハ假令延テ地方ノ利害ニ影響ヲ及ホスコトアリトスルモ選舉法違反ヲ以テ問擬スヘキモノニ非ス之ニ反シテ其ノ事項カ主トシテ地方ノ利害ニ關スルモノナルトキハ假令延テ國家全般ノ利害ニ多少ノ影響ヲ及ホスコトアリトスルモ選舉法違反ヲ以テ處罰スヘキモノトス

○府縣會議員ノ選舉ニ付テハ其ノ事項カ府縣全般ノ利害ニ關スルモノナ

一三	一三	一三	一三
三	三	三	三
三	三	三	三
八二	八〇七	七九四	七四五

リヤ將又主トシテ地方的利害ニ關スルモノナリヤヲ考量シテ選舉法違反タルヤ否ヤヲ判定スヘキモノトス

○議員候補者又ハ選舉運動者カ議員候補者ニ候補者タルコトヲ止メタル者ニ對シ其ノ報酬トシテ金圓ヲ供與シタル行爲ハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第七號ニ該當スルモノトス

○議員候補者カ選舉運動ニ要シタル費用ノ補填トシテ金圓ノ供與ヲ受クルハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ノ利益ヲ受ケタルモノニ該當ス

○議員候補者ノ投票取得ヲ妨害スヘキ行爲ヲ排除スル爲夜警ヲ爲スカ如キハ一種ノ選舉運動ナリトス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號ニ所謂利害關係ハ其ノ利害カ私的性質ヲ有スルト公的性質ヲ有スルトヲ問ハス又其ノ關係事項カ現在ノモノナルコトヲ要セス將來ノモノト雖其ノ發生ノ可能性ヲ有スレハ足ルモノトス

○選舉人カ議員候補者ノ推薦詮衡ニ要シタル實費ト雖選舉運動者カ議員候補者ノ爲ニ投票ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選舉人ノ爲其ノ實費ヲ支辨シ選舉人ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ支辨ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキ

一三	一三	一三	一三
三	三	三	三
三	三	三	三
九二〇	九一〇	九三八	六五

- 衆議院議員選舉法第八十七條第一項第八號ノ犯罪ヲ構成ス
- 或鐵道ノ敷設カ國家交通政策ノ一端ニ屬シ其ノ速成ニ依リテ多少一般交通上ニ利スル所アルモ之カ爲ニ主トシテ利害ヲ感スルモノハ特定ノ一地方ナル場合ニ於テ衆議院議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ其ノ地方ノ選舉運動者ニ對シ當選ノ上ハ右鐵道ノ速成ニ努力スヘキ旨ヲ告ケテ投票ヲ求メ選舉運動ヲ依頼シタルトキハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號ニ所謂利害關係ヲ利用シテ誘導シタルモノニ該當ス
- 衆議院議員候補者カ一場ノ演說ニ依リ同時ニ多數ノ選舉人及選舉運動者ニ對シ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號ノ誘導ヲ爲シタルトキハ之ヲ包括シ一罪トシテ處斷スヘク一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ處斷スヘキモノニ非ス
- 衆議院議員選舉法ノ罰則ニ所謂金錢ノ供與トハ出金者ノ何人タルヲ問ハス事實上金錢ヲ給付スル總テノ行爲ヲ包含スルモノニシテ他ヨリ特定ノ選舉運動者ニ金錢ヲ給付スルコトヲ委託セラレ之ヲ受領シテ其ノ者ニ給付スルハ金錢ノ供與ニ外ナラス
- 選舉運動者カ議員候補者ノ爲ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ他ノ選舉運動者ニ對シ實費ト報酬トヲ分別スルコトナク包括シテ金錢ヲ供與シタル場

一四	一四	一四	一四
四	四	四	四
二〇九	二〇四	二〇四	二一六

- 合ニ於テ裁判所カ其ノ罪ヲ斷スルニ當リ實費トシテ現ニ支出シタル額ヲ確定セサルモ不法ニ非ス
- 選舉運動者カ特ニ議員候補者ノ爲投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ選舉人ヲ招請シ之ニ飲食物ヲ供スル場合ハ其ノ供與シタル飲食物ノ價格ノ多少又其ノ時刻ノ常食時タルト否トヲ問ハス衆議院議員選舉法第八十七條第一項第二號ニ所謂饗應接待ニ該當ス
- 選舉運動者ニ對シテ報酬又ハ謝禮ノ意味ヲ有セス單ニ常食時ニ於テ一般社交上ノ儀禮ニ超越セサル程度ノ飲食物ヲ供スルハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第二號ニ所謂饗應接待ニ該當セス
- 投票ヲ得ル目的ヲ以テ議員候補者又ハ選舉運動者カ多數ノ選舉人又ハ選舉運動者ヲ同一日時及場所ニ於テ酒食其ノ他ノ方法ヲ以テ饗應接待シタル行爲ハ包括的一罪ヲ以テ論スヘク刑法第五十四條ニ所謂一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當セス
- 議員候補者タルニハ選舉ニ因リ議員タラント欲スル者カ其ノ意思ヲ外部ニ發表スルヲ以テ足り必スシモ不定多數人ニ對シ其ノ意思ヲ發表スルノ要ナキモノトス
- 衆議院議員選舉法第八十七條第一項第四號ノ議員候補者カ投票ヲ得ル

一四	一四	一四	一四
四	四	四	四
二四〇	二五四	二五四	二八六
三五二			

目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ誘導ノ爲利用スル利害ノ關係タルニハ議員候補者ニ於テ其ノ利害ニ付直接ニ當事者トシテ關係ヲ有スルコトヲ要セス又議員候補者自身カ其ノ關係事項ノ内容ヲ實現シ得ルコトヲ要セサルモノトス

○議員候補者又ハ選舉運動者カ議員候補者選舉運動者又ハ選舉人ノ行爲又ハ不行爲ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ之ニ對シ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ノ供與若ハ第二號ノ饗應接待ヲ爲シタルトキハ同條第一項第七號ニ該當スル罰則ノ違反トナリ豫メ其ノ約束ヲ爲シタルヤ否ハ犯罪ノ成立ニ影響ナキモノトス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第七號ノ犯罪ハ同號所定ノ行爲アルニ因リテ成立スヘク當該選舉ノ無効ナルカ爲其ノ犯罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス

○選舉運動者カ議員候補者ノ爲ニ投票ヲ爲サシムル目的ヲ以テ他人ニ對シ選舉人ニ米ヲ供與スヘキ申込ヲ爲スコトヲ依頼シタル場合ニ其ノ者カ辨當代ヲ供與スヘキ申込ヲ爲シタルトスルモ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第五號ノ適用上選舉運動者ハ選舉人ニ財産上利益供與ノ申込ヲ爲シタルモノニ外ナラス

一四	一四	一四	一四
四	四	四	四
五五四	五三八	五三八	四三三

○村會議員候補者カ村治ニ關スル村費負擔ノ輕減並學校増築ノ問題ニ付意見ヲ主張スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ之ニ關シ村内ノ一區又ハ一部落ノ住民ノ爲特殊ノ利益ヲ主張シ之ヲ利用シテ選舉人ヲ誘導スル行爲ハ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第八十七條第四號ノ罪ヲ構成ス

○議員候補者ヲシテ其ノ議員候補ヲ止メシムル目的ヲ以テ公ノ職務ヲ供與スルコトヲ申込ミタル場合ニ於テハ申込者ニ授與ノ權限アルト否トヲ問ハス全然不能ニ非サル限ハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項ノ職務供與申込罪ヲ構成ス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項各號ニ所謂選舉人トハ法律ニ依リ選舉權ヲ享有スルニ必要ナル適格ヲ具備スルモノトシテ選舉人名簿ニ登録セラレタル者ヲ指稱スルモノトス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ニ所謂金錢物品ノ供與ヲ爲シタルトキトアルハ供與ノ申込ト異ナリ供與ヲ受クル者ニ於テ之カ受領ヲ爲シタル事實アルコトヲ要ス

第八十八條

○村ノ區長タル者カ區民タル選舉人ニ對シ其ノ推薦スル議員候補者ニ投

一四	一五	一五	一五
四	五	五	五
六五八	三三	二〇八	二二三

付適用アルモ其ノ以後ニ於ケル犯行ニハ適用ナキモノトス

第九十三條

○衆議院議員選舉法第九十三條第一項ニ所謂人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件トハ同條項ニ例示スル銃砲槍戟刀劍竹槍棍棒等ト同視スヘキ程度ニ在ル用法上ノ兇器ニシテ直ニ危險ノ感ヲ抱カシムルニ足ルモノヲ指稱シ總テ人ヲ殺傷スル可能性ヲ有スル物件ヲ悉ク包含スルモノニ非ス

第九十八條

○衆議院議員選舉法第九十八條第二項ノ投票數増減ノ罪ハ獨リ有形的ニ票數ノ不正計算ヲ爲ス場合ノミ成立スルニ非ス

○投票ノ有效ナルコト明瞭ニシテ全然反對ノ見解ヲ容ルル餘地ナキモノニ付罔ヒテ之ヲ無効ト決シ投票ノ數ヲ減スル選舉長ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第九十八條第三項第二項ノ罪ヲ構成ス

○投票ノ有效無効ニ關シ疑義アリ解釋ノ餘地ヲ存スルモノニ付之ヲ決スルハ選舉長ノ職權裁量ノ範圍ニ屬シ何レニ決スルモ適法ナル職權行使ニ外ナラサルヲ以テ投票數増減ノ罪ヲ構成スルコトナシ

出版法

一四	一四
四	四
三三五	三三五
二	二
一	一
六	六

第一條

○新聞紙法ニ所謂印刷人タルニハ新聞紙ノ印刷ヲ擔當スルヲ以テ足り自ラ印刷ノ機械的作業ヲ行フヲ要セス

第十九條

○内務大臣カ出版法第十九條ニ依リテ文書ノ發賣頒布ヲ禁止シタル場合ニ於テハ其ノ禁止命令ノ效力ハ禁止アリタル文書圖書ト同一内容ヲ有スル一切ノ文書圖書ニ及フヘキモノトス

第二十六條

○内務大臣カ出版法第十九條ニ依リテ文書ノ發賣頒布ヲ禁止シタル場合ニ於テハ其ノ禁止命令ノ效力ハ禁止アリタル文書圖書ト同一内容ヲ有スル一切ノ文書圖書ニ及フモノトス

第二十七條

○文書カ風俗ヲ壞亂スルモノナリヤ否ハ現時ニ於ケル社會ノ普通觀念ヲ標準トシテ之ヲ決スヘキモノニシテ苟モ客觀的ニ風俗ヲ壞亂スルモノニ該當スル文書ヲ著作發行スル以上ハ其ノ創作ナルト翻譯ナルト又其ノ主旨性慾ニ關スル知識ヲ普及シ弊害ヲ除カントスルニ在ルト否トヲ問ハス出版法第二十七條ノ制裁ヲ免ルルヲ得サルモノトス

一五	一五
五	五
五二	五二
三	三
二	二
三三〇	三三〇
三	三
一九三	一九三

○内務大臣カ出版法第十九條ニ依リテ文書ノ發賣頒布ヲ禁止シタル場合ニ於テハ其ノ禁止命令ノ效力ハ禁止アリタル文書圖書ト同一内容ヲ有スル一切ノ文書圖書ニ及フモノトス

第二十八條

○内務大臣カ出版法第十九條ニ依リテ文書ノ發賣頒布ヲ禁止シタル場合ニ於テハ其ノ禁止命令ノ效力ハ禁止アリタル文書圖書ト同一内容ヲ有スル一切ノ文書圖書ニ及フモノトス

銃砲火藥類取締法

第二條

○銃砲火藥類取締法ニ所謂火藥類ノ製造變形修理ト同法施行規則ニ所謂火藥類ノ所持トハ全然別個ノ觀念ニシテ其ノ製造ハ當然製造完了後ノ所持ヲ包含スルモノニ非ス

第三條

○銃砲火藥類取締法第三條第一項ニ違背シ行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ二回ニ銃砲類ヲ賣却シ營業行爲ヲ爲シタル者ハ包括的一個ノ犯罪トシ

一三
二
二七

一三
二
二〇

一三
二
三〇

テ處罰スヘキモノニシテ個々ノ行爲ニ對シ連續犯トシテ處斷スヘキモノニ非サレハ之ニ刑法第五十五條ヲ適用シタルハ違法ヲ免レスト雖結局一罪ヲ以テ處斷シタルモノナレハ單一罪トシテ處斷シタルト刑ノ量定其ノ他ニ於テ異ナル所ナク前示違法ハ判決ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○行政官廳ノ許可ナクシテ銃砲火藥類ヲ輸入シタル行爲ト逐次之ヲ營業トシテ販賣シタル行爲トハ互ニ相牽聯シテ手段結果ノ關係ヲ有スルヲ以テ刑法第五十四條ニ依リ處分スヘキモノトス

第六條

○數人共謀シテ銃砲火藥類取締法第六條ニ違反スル讓渡行爲ヲ爲シタルトキハ各自正犯トシテ同法第十九條ニ依ル罪責ヲ負フヘク其ノ讓渡ケタル物件カ實際何人ノ計算ニ於テ讓受ケラレ何人ノ所有ニ歸屬スヘキヤノ如キハ各自ノ罪責ニ消長ヲ及ホスコトナシ

○火藥類ノ讓渡ノ資格ナキ被告人甲カ其ノ讓受ノ資格ナキ被告人乙ニ火藥類ヲ讓渡シタル事實ニ付各別ニ其ノ火藥沒收ノ刑ヲ科セル有罪判決ノ言渡ヲ受ケ各自之ニ對シテ上告ヲ申立テ上告審ニ於テ併合審理ノ結果沒收ノ言渡ニ對スル乙ノ上告論旨ヲ理由アリト認メテ原判決ヲ破毀

一三
三
五

一五
五
三七

一三
三
六〇

スルトキハ甲ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘキモノトス
○火藥類ノ所有權ヲ有セサルモ現實ニ火藥類ヲ領有スル者カ相手方ト合意ノ上相手方ヲシテ之ヲ取得セシムルノ目的ヲ以テ爲ス處分行爲ハ銃砲火藥類取締法第六條ノ讓渡行爲ニ該當ス

第九條

○行政官廳ノ許可ナクシテ銃砲火藥類ヲ輸入シタル行爲ト逐次之ヲ營業トシテ販賣シタル行爲トハ互ニ相牽聯シテ手段結果ノ關係ヲ有スルヲ以テ刑法第五十四條ニ依リ處分スヘキモノトス

第十二條

○銃砲火藥類取締法第十二條ノ火藥類ノ授受運搬攜帶ニ關スル規定ハ同法第六條ノ讓渡又ハ讓受等ノ處分行爲ニ關シテハ其ノ適用ナキモノトス

第十六條

○銃砲火藥類取締法ニ所謂火藥類ノ製造變形修理ト同法施行規則ニ所謂火藥類ノ所持トハ全然別個ノ觀念ニシテ其ノ製造ハ當然製造完了後ノ所持ヲ包含スルモノニ非ス

○銃砲火藥類取締法第三條第一項ニ違背シ行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ

一三	一五	一五	一五	一三
三	五	五	五	三
二七	三五	三七	三五	四五

二回ニ銃砲類ヲ賣却シ營業行爲ヲ爲シタル者ハ包括的一個ノ犯罪トシテ處斷スヘキモノニシテ個々ノ行爲ニ對シ連續犯トシテ處斷スヘキモノニ非サレハ之ニ刑法第五十五條ヲ適用シタルハ違法ヲ免レスト雖結局一罪ヲ以テ處斷シタルモノナレハ單一罪トシテ處斷シタルト刑ノ量定其ノ他ニ於テ異ナル所ナク前示違法ハ判決ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○行政官廳ノ許可ナクシテ銃砲火藥類ヲ輸入シタル行爲ト逐次之ヲ營業トシテ販賣シタル行爲トハ互ニ相牽聯シテ手段結果ノ關係ヲ有スルヲ以テ刑法第五十四條ニ依リ處分スヘキモノトス

第十九條

○數人共謀シテ銃砲火藥類取締法第六條ニ違反スル讓渡行爲ヲ爲シタルトキハ各自正犯トシテ同法第十九條ニ依ル罪責ヲ負フヘク其ノ讓受ケタル物件カ實際何人ノ計算ニ於テ讓受ケラレ何人ノ所有ニ歸屬スヘキヤノ如キハ各自ノ罪責ニ消長ヲ及ホスコトナシ

○火藥類ノ讓渡ノ資格ナキ被告人甲カ其ノ讓受ノ資格ナキ被告人乙ニ火藥類ヲ讓渡シタル事實ニ付各別ニ其ノ火藥沒收ノ刑ヲ科セル有罪判決ノ言渡ヲ受ケ各自之ニ對シテ上告ヲ申立テ上告審ニ於テ併合審理ノ結

一三	一五	一三
三	五	三六〇二
五	三七	

果沒收ノ言渡ニ對スル乙ノ上告論旨ヲ理由アリト認メテ原判決ヲ破毀
スルトキハ甲ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘキモノトス

○火藥類ノ所有權ヲ有セサルモ現實ニ火藥類ヲ領有スル者カ相手方ト合
意ノ上相手方ヲシテ之ヲ取得セシムルノ目的ヲ以テ爲ス處分行爲ハ銃
砲火藥類取締法第六條ノ讓渡行爲ニ該當ス

第二十一條

○銃砲火藥類取締法第二十一條ニ所謂行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲火藥類
ニ關スル事業ヲ行フ者トハ銃砲火藥類ノ營業者ニ非スシテ許可ヲ受ケ
テ銃砲火藥類ノ一時的製造販賣等ヲ爲ス者ハ勿論火藥類ヲ使用シテ工
業鑛業漁業等ヲ營ム者ヲモ指稱スルモノトス

第二十三條

○銃砲火藥類取締法第二十一條ニ所謂行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲火藥類
ニ關スル事業ヲ行フ者トハ銃砲火藥類ノ營業者ニ非スシテ許可ヲ受ケ
テ銃砲火藥類ノ一時的製造販賣等ヲ爲ス者ハ勿論火藥類ヲ使用シテ工
業鑛業漁業等ヲ營ム者ヲモ指稱スルモノトス

銃砲火藥類取締法施行規則

一三	一五	一三
三	五	三
三五	三五	四五

第二條

○火藥類ノ所有權ヲ有セサルモ現實ニ火藥類ヲ領有スル者カ相手方ト合
意ノ上相手方ヲシテ之ヲ取得セシムルノ目的ヲ以テ爲ス處分行爲ハ銃
砲火藥類取締法第六條ノ讓渡行爲ニ該當ス

第十八條

○銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ火藥類ハ其ノ讓渡及讓受ニ
付テハ所轄警察署ノ許可ヲ要スルモ單ニ之ヲ所持スルニ付テハ何等ノ
手續ヲ要セサルモノトス

○銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第一項ノ資格者ニ非スシテ鑛業
用其ノ他銃用ニ供セサル雷管ヲ所持スル者ハ其ノ數量ノ如何ヲ問ハス
同規則第四十五條ノ處罰ヲ受クヘキモノトス

第二十一條

○火藥類ヲ使用スル事業ニ從事スル者ノ雇人カ賃金ノ減額ヲ免ルル爲ニ
スルト同時ニ其ノ事業ニ使用スル目的ヲ以テ事業主ヨリ交付セラレタ
ル「ダイナマイト」中使用ノ殘品ヲ貯藏所外ニ貯藏スル行爲ハ業務ニ關
スル行爲ナリトス

○雇人カ雇主ノ業務ニ關シ無免許ニテ貯藏シタル火藥類ヲ自己ノ爲ニ賣

一五	一三	二
五	二	一
五五	五三	九三

却スル其ノ行爲ハ業務ニ關スルモノニ非ス

第二十二條

○火藥類ヲ使用スル事業ニ從事スル者ノ雇人カ賃金ノ減額ヲ免ルル爲ニ
スルト同時ニ其ノ事業ニ使用スル目的ヲ以テ事業主ヨリ交付セラレタ
ル「ダイナマイト」中使用ノ殘品ヲ貯藏所外ニ貯藏スル行爲ハ業務ニ關
スル行爲ナリトス

○雇人カ雇主ノ業務ニ關シ無免許ニテ貯藏シタル火藥類ヲ自己ノ爲ニ賣
却スル其ノ行爲ハ業務ニ關スルモノニ非ス

○鑛物試掘權ニ基キ火藥ヲ讓受ケ所持スル資格ヲ有スルニ過キササル者カ
轉賣シテ利益ヲ得ル目的ヲ以テ之ヲ讓受ケタル後所持スル行爲ハ銃砲
火藥類取締法施行規則第二十二條ノ違反ナリ

○銃砲火藥類取締法ニ所謂火藥類ノ製造變形修理ト同法施行規則ニ所謂
火藥類ノ所持トハ全然別個ノ觀念ニシテ其ノ製造ハ當然製造完了後ノ
所持ヲ包含スルモノニ非ス

○銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ火藥類ハ其ノ讓渡及讓受ニ
付テハ所轄警察署ノ許可ヲ要スルモ單ニ之ヲ所持スルニ付テハ何等ノ
手續ヲ要セサルモノトス

二 九二

二 九三

二 九三

二 一四二

二 二七七

二 五三二

○銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第一項ノ資格者ニ非スシテ鑛業
用其ノ他銃用ニ供セサル雷管ヲ所持スル者ハ其ノ數量ノ如何ヲ問ハス
同規則第四十五條ノ處罰ヲ受クヘキモノトス

第三十七條

○變裝シタル火藥類ヲ鐵道運送ニ依リ託送スル行爲ハ銃砲火藥類取締法
施行規則第三十七條第一項第四十五條及鐵道營業法第三十一條ニ該當
シ刑法第五十四條第一項前段第十條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

第三十九條

○火藥類取締法施行規則ニ所謂銃砲ノ授受ト授受以後ニ於ケル其ノ所持
トハ全然別個ノ觀念ニシテ未成年者カ許可ヲ受ケスシテ銃器ヲ借受ケ
之ヲ所持スル行爲ハ同規則第三十九條及第四十條ノ違反罪ナリトス

第四十條

○火藥類取締法施行規則ニ所謂銃砲ノ授受ト授受以後ニ於ケル其ノ所持
トハ全然別個ノ觀念ニシテ未成年者カ許可ヲ受ケスシテ銃器ヲ借受ケ
之ヲ所持スル行爲ハ同規則第三十九條及第四十條ノ違反罪ナリトス

第四十五條

○銃砲火藥類取締法ニ所謂火藥類ノ製造變形修理ト同法施行規則ニ所謂

二 三一五

二 四二六

二 二七七

二 二七七

火藥類ノ所持トハ全然別個ノ觀念ニシテ其ノ製造ハ當然製造完了後ノ所持ヲ包含スルモノニ非ス

○變裝シタル火藥類ヲ鐵道運送ニ依リ託送スル行爲ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十七條第一項第四十五條及鐵道營業法第三十一條ニ該當シ刑法第五十四條第一項前段第十條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

○銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第一項ノ資格者ニ非スシテ鑛業用其ノ他銃用ニ供セサル雷管ヲ所持スル者ハ其ノ數量ノ如何ヲ問ハス同規則第四十五條ノ處罰ヲ受クヘキモノトス

第四十六條

○火藥類取締法施行規則ニ所謂銃砲ノ授受ト授受以後ニ於ケル其ノ所持トハ全然別個ノ觀念ニシテ未成年者カ許可ヲ受ケスシテ銃器ヲ借受ケ之ヲ所持スル行爲ハ同規則第三十九條及第四十條ノ違反罪ナリトス

銃砲火藥類取締法施行細則

第三十條

○火藥ヲ自己ノ事業ニ消費スルノ許可ヲ受ケ他人ヲ使用シテ之ヲ其ノ事

業ニ消費セシメタル者ハ火藥ノ消費者トシテ所轄警察官署ノ指示ニ從ヒ速ニ帳簿類ニ記入シテ之ヲ明ニスル義務アリ

第五十五條

○火藥ヲ自己ノ事業ニ消費スルノ許可ヲ受ケ他人ヲ使用シテ之ヲ其ノ事業ニ消費セシメタル者ハ火藥ノ消費者トシテ所轄警察官署ノ指示ニ從ヒ速ニ帳簿類ニ記入シテ之ヲ明ニスル義務アリ

病院醫院等取締ニ關スル件

(明治四十二年內務省令第十九號)

第一條

○明治四十二年內務省令第十九號第二條ノ處罰規定ハ醫師又ハ齒科醫師ヲシテ診察治療ニ從事セシムル診察所又ハ治療所ノ設立者カ其ノ第一條ノ規定ニ違背シタル場合ニ適用セラルヘキモノナレハ齒科醫師カ自己ノ技能又ハ療法ヲ廣告シタル場合ニ適用セラルヘキモノニ非ス

第二條

○明治四十二年內務省令第十九號第二條ノ處罰規定ハ醫師又ハ齒科醫師

二三 二二七

二三 二四六

二三 一二五

二三 二二七

二三 三五三

二三 三五三

二三 三五四

ラシテ診察治療ニ從事セシムル診察所又ハ治療所ノ設立者カ其ノ第一條ノ規定ニ違背シタル場合ニ適用セラレヘキモノナレハ齒科醫師カ自巳ノ技能又ハ療法ヲ廣告シタル場合ニ適用セラレヘキモノニ非ス

一三
二
三五四

「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ

取締ニ關スル件 (大正九年內務省令第四十一號)

第一條

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令ニ所謂輸入トハ陸上ニ在リテハ我國境線ヲ超ヘ海上ニ在リテハ陸揚シテ其ノ目的物ヲ我國内ニ入ルル行爲ヲ謂フ

一三
三七五七

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ヲ輸入セントスル者カ內務大臣ノ許可ヲ受ケサルモ未タ陸揚行爲ヲ爲スニ至ラサル場合ニハ大正九年內務省令第四十一號第八條ノ罪ヲ構成スルコトナシ

一三
三七五七

第二條

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令第十二條ノ「コデイン」中ニハ日本藥局方ニ所謂燐酸「コデイン」ヲ包含スルモノト

一三
三七五七

ス

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令ニ所謂輸出行爲ハ海上ニ在リテハ帝國領土外ニ仕向ケラレタル船艦ニ目的物ヲ積載セルニ依リテ完成スルモノトス

一五
五
四〇四

第八條

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令第十二條ノ「コデイン」中ニハ日本藥局方ニ所謂燐酸「コデイン」ヲ包含スルモノトス

一三
三
七一

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令ニ所謂輸入トハ陸上ニ在リテハ我國境線ヲ超ヘ海上ニ在リテハ陸揚シテ其ノ目的物ヲ我國内ニ入ルル行爲ヲ云フ

一三
三七五七

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ヲ輸入セントスル者カ內務大臣ノ許可ヲ受ケサルモ未タ陸揚行爲ヲ爲スニ至ラサル場合ニハ大正九年內務省令第四十一號第八條ノ罪ヲ構成スルコトナシ

一三
三七五七

第十一條

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令ニ所謂輸入トハ陸上ニ在リテハ我國境線ヲ超ヘ海上ニ在リテハ陸揚シテ其ノ目的

一三
三七五七

物ヲ我國内ニ入ルル行爲ヲ謂フ

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ヲ輸入セントスル者カ内務大臣ノ許可ヲ受ケサルモ未タ陸揚行爲ヲ爲スニ至ラサル場合ニハ大正九年内務省令第四十一號第八條ノ罪ヲ構成スルコトナシ

第十二條

○「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル内務省令第十二條ノ「コデイン」中ニハ日本藥局方ニ所謂燐酸「コデイン」ヲ包含スルモノトス

船員法

第十三條

○船舶カ河川ニ於テ坐洲シタル場合ニ之ヲ引卸ス爲索條ヲ船首ノ杭ニ結ヒ附ケ河川ヲ横斷シテ陸上ト船舶トニ於テ引締ムル方法ニ依リ作業ヲ爲スニ方テハ船長ハ他ノ船舶ヲシテ安全ニ通過セシムルニ付必要ナル注意ヲ爲スヘキ職務上ノ義務アルモノトス

第十九條

○船舶カ河川ニ於テ坐洲シタル場合ニ之ヲ引卸ス爲索條ヲ船首ノ杭ニ結ヒ附ケ河川ヲ横斷シテ陸上ト船舶トニ於テ引締ムル方法ニ依リ作業ヲ爲スニ方テハ船長ハ他ノ船舶ヲシテ安全ニ通過セシムルニ付必要ナル注意ヲ爲スヘキ職務上ノ義務アルモノトス

第六十四條

○船員法第六十四條第二項ニ所謂海員ノ脱船トハ海員カ其ノ職務ヨリ全然離脱スル目的ヲ以テ乗込船舶ヲ去ル行爲ヲ指稱スルモノトス

第七十二條

○船員法第七十二條ノ海員カ相黨與シトハ一人ノ海員カ他ノ一人若ハ二人以上ノ海員ト一定ノ目的ヲ以テ通謀シ合同結束スルヲ謂フモノトス

船舶職員法

第八條

○船舶職員法第八條第一項ニ依リテ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶賃借人ヲ處罰スルニハ是等ノ者カ法定ノ資格アル船舶職員ヲ乗組マシメサルコトヲ必要トスルモノニシテ其ノ所謂乗組マシメサルトキトハ是等

諸注令 船員法 船舶職員法

三	三五七
三	三五七
三	七一
一三	三七三

一三	三七三
二	二二
二	五七六

ノ者ニ於テ全然其ノ職員ノ配置ヲ爲サス又ハ之ヲ配置シタルモ特ニ其ノ意思ニ依リテ之ヲ乗船セシメサル場合ヲ謂フモノニシテ單ニ配置セラレタル職員カ故意又ハ過失ニ因リテ乗船セサル場合ヲ謂フモノニ非スト解スルヲ相當トス

精神病者監護法

第三條

○精神病者監護法第三條第一項但書ノ規定ハ同法第十七條第一項前段ノ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由トナルモノトス

第十七條

○精神病者監護法第三條第一項但書ノ規定ハ同法第十七條第一項前段ノ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由トナルモノトス

一三	一三	一三
一三	一三	一三
一三	一三	一〇〇一

昭和三年五月二十五日印刷
昭和三年五月二十七日發行

大審院民事判例要旨類纂奥附

定價金四圓五拾錢

發行所

東京市麴町區西日比谷町一番地
財團法人 曹會

編輯兼
發行者

東京府豐多摩郡和田堀町和泉三百二十七番地
金光純

印刷所

東京府豐多摩郡野方町新井三百三十六番地
豐多摩刑務所

印刷者

五島林太郎

書庫

著作權所有

中華民國二十八年三月二十日

法律資料第一課

28.3.20
調查立法考查局

法律資料第一課
調查立法考查局



